

総合教養科目

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
総合教養センター専任教員、吉田涼平			
ナンバリング：G11A01			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業概要) 初回の授業では戸板女子短期大学の歴史を理解し帰属意識を確立する。その後の前半は実社会で即戦力となれるよう、産官学連携の演習を通してリーダーシップ力を高めるためのワークを行う。後半は社会人になるにあたって不可欠なマナーを習得する。また、各種講演を取り入れ、幅広い教養を得る機会を得る。 (授業目標) さまざまなワークを通して、本学の学生として必要な教養と実践力の基盤を形成し、社会への準備を整える。 (学習成果) ◎A：ものごとに対する興味と問題意識を持ち、仲間とともに積極的に課題に取り組むことができる。 B：自律した精神をもち、他者と関わるができる。 ○C：そのときどきの状況を理解し、適切な判断のもとに行動することができる。 D：ふさわしい手法を用いて自分の考えを論理的に表現できる。		
授業計画	1	戸板ゼミ概要 学長講演 戸板ゼミナールに関するガイダンス 避難訓練	
	2	リーダーシッププログラム (1) リーダーシップ理論の解説 チームビルディング	
	3	リーダーシッププログラム (2) 産学連携の解説 企業からの情報提示 提案内容の検討① (課題設定)	
	4	リーダーシッププログラム (3) 提案内容の検討② (解決策の検討)	
	5	リーダーシッププログラム (4) 中間プレゼンテーション (ポスターセッション) 中間振り返り (チーム内の相互フィードバック)	
	6	リーダーシッププログラム (5) 提案内容の更新	
	7	リーダーシッププログラム (6) 最終プレゼンテーション	
	8	リーダーシッププログラム (7) 代表チームの選出 チーム振り返り (チーム活動の三箇条) 個人振り返り (チーム内の相互フィードバック)	
	9	バラエティプログラム 複数の特別講師あるいは教職員から、「人生の失敗をどう乗り越えるか」というテーマで講演を聞き見聞を広める。 また、法律や政治に興味がある学生は、専門家から「学生にとって知っておきたい法律/政治」の話の聞き興味の幅を広める。	
	10	マナー講座 1 「第一印象の重要性」 (講義/演習) ①講義の目的と目標、授業内での4つのルールを確認する ②マナーの基本となる応対の五原則 (視覚的要素・聴覚的要素) の理解 ③スマイルトレーニングを覚え、口角が上がった笑顔が出来るようになる ④挨拶を極意で学ぶ 正しい姿勢、綺麗なお辞儀の基本形を練習後、挨拶の後の言葉かけを練習する	
	11	マナー講座 2 「エレガントな立ち居振る舞い」 (講義/演習) ①信頼される話し方トレーニング (腹式呼吸・発声・発音の基本練習) ②動作のポイントを理解し、一つ一つの動きを覚え練習する (立ち姿・椅子の座り方・物の授受、指し示し等) ③ビジネスウォーク・エレガントウォークを覚え、颯爽とリズムカルに歩けるようになる (ウォーキング・0脚をなおす体操)	
	12	マナー演習 3 「コミュニケーションの達人を目指す」 (講義/演習) ①信頼される話し方トレーニング (滑舌法・声の演出法) ②きき方5ポイントを覚え、積極的にきく姿勢を身につける ③リフレクティングプラスワン話法 (共感しながら楽しい会話を続ける) トレーニング	

	<p>13 ④婉曲な表現や共感を示すきき方を実践しながら会話が出来るようになる マナー演習4 「場面に応じた立ち居振る舞い」 ①来客対応・訪問マナー （ドアの開閉、お茶の出し方/いただき方、エレベーターの乗り方、上座下座 等） ②それぞれの場面で好印象を与える言動を考える （挨拶の口上、訪問時の作法） ③封筒の表書きの書き方練習</p> <p>14 マナー演習5 「場面に応じた服装とマナー」 ①目的に応じた服装、慶事弔事の心得（袱紗の使い方、祝儀袋の書き方） ②パーティーマナー、テーブルマナー、和食のマナー ③お礼状の送り方（メール、グリーティングカード等）</p> <p>15 防犯セミナー／学科ガイダンス 夏期休業を前に、防犯について、専門家より学ぶ。また学科ごとに分かれ、夏休みの過ごし方等についてレクチャーする。</p>
到達目標・基準	<p>◎A：ひとつひとつの課題に最後まで真摯に取り組むことができる。 B：自分の役割を果たす努力をしながらグループワークに参加することができる。 ○C：そのときどきの状況で適切とされる行動が何かを考える習慣を身につける。 D：自分の考えを整理してから相手に伝えることができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：プログラム、担当者等によるため、授業担当者の指示にしたがうこと。（30分程度） 事後学習：プログラム、担当者等によるため、授業担当者の指示にしたがうこと。（30分程度）</p>
指導方法	<p>専門家の監修のもと、グループ活動を通して学びを深める。 フィードバックの仕方：各プログラムにより担当教員、ゲスト講師や連携企業からのフィードバックのほか、必要に応じて個別にコメントする。質問があった場合には、個別に対応する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎A：課題、授業への貢献度を評価する。 B：課題、授業への貢献度を評価する。 ○C：課題、授業への貢献度を評価する。 D：課題、授業への貢献度を評価する。 授業への貢献度50%、課題50%</p>
テキスト	<p>適宜必要なプリント等の資料を配布する。 マナーの授業に関しては、「マナー演習テキスト」を使用する。</p>
参考書	<p>総合教養センターが推薦している図書（図書館及び総合教養センターに設置）、ゲスト講師推薦の図書</p>
履修上の注意	<p>毎回の連絡事項を各自でよく確認し、まちがえることのないよう出席すること。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	<p>グループワーク、プレゼンテーション、PBL</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
村木桂子、布施梓			
ナンバリング：G11A02			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業概要) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、また社会人としての礎を築くため、学びの基盤と就職活動に必要な日本語力を身につける。オンデマンド授業では問題を解くことで基礎的な日本語能力(読解・語彙・論理)を伸ばし、対面授業ではグループ・ワークによる言語運用力(伝達・思考・協働)を鍛える。これらの演習を通して、学科で専門的な学びを深めるためのアカデミック・スキルや、就職活動に必要な読む力と書く力を養う。 (授業目標) 基礎問題において、図や文章の読み取り、ものごとの因果関係を理解することができる。 (学習成果) ◎D：課題への取り組みを通して大学生としてふさわしいアカデミック・スキルを身につける。 ○E：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 小テスト：漢字書き取り 講義の目的と目標、授業のルールと流れの確認 演習問題：2語の対応、熟語の意味 (ICTの活用：e-learningにて事前学修)</p> <p>2 語彙・文法 小テスト：2語の対応、熟語の意味 演習：説明の流れを読み取る 演習問題：対義語・類義語 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)</p> <p>3 読解力(意味内容) 小テスト：対義語・類義語 演習：文章の構成を読み取る 演習問題：四字熟語 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)</p> <p>4 作成力(表現) 小テスト：四字熟語 演習：指示語の内容をとらえる 演習問題：語句の用法 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)</p> <p>5 読解力(文章構成) 小テスト：語句の用法 演習：話の展開を読み取る 演習問題：同音異義・同訓異字 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)</p> <p>6 作成力(伝える力) 小テスト：同音異義・同訓異字 演習：主語と述語をとらえる 演習問題：語句の用法2 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)</p> <p>7 読解力(資料分析) 小テスト：語句の用法2 演習：事実と考えを読み分ける 演習問題：難読漢字、熟語のなりたち (ICTの活用：e-learningにて事後学修)</p> <p>8 作成力(考える力) 小テスト：難読漢字、熟語のなりたち 演習：修飾語をとらえる 演習問題：漢字書き取り、慣用句 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)</p> <p>9 発信力(プレゼンテーション) ミニプレゼンテーション(ビブリオバトル) 演習：要点をとらえる (ICTの活用：e-learningにて事後学習)</p> <p>10 読解力(意味内容)2 小テスト：漢字書き取り、慣用句 演習：要点をとらえる2</p>

	<p>11 演習問題：ことわざ・故事成語 (ICTの活用：e-learningにて事後学習) 作成力(表現) 2 小テスト：ことわざ・故事成語 演習：文章の構成を読み取る2 演習問題：2語の対応、熟語の意味2 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)</p> <p>12 読解力(文章構成) 2 小テスト：2語の対応、熟語の意味2 演習：話の展開を読み取る2 演習問題：対義語・類義語2 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)</p> <p>13 作成力(伝える力) 2 小テスト：対義語・類義語2 演習：指示語の内容をとらえる2 演習問題：四字熟語2 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)</p> <p>14 読解力(資料分析) 2 小テスト：四字熟語2 演習：事実と考えを読み分ける2 演習問題：漢字書き取り、慣用句2 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)</p> <p>15 作成力(考える力) 2 小テスト：漢字書き取り、慣用句2 演習：要点をとらえる3 演習問題：ことわざ・故事成語2 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)</p>
到達目標・基準	<p>◎D：論理的な文章の基本型を理解し、書き上げることができる。 ○E：基礎的な就職試験問題を解くことができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習 小テストに向け、事前配布したプリントやe-learning上の指示された課題に取り組む。(60分程度) 事後学習 授業内容を復習する。小テストは合格点に達するまで繰り返し復習する。文章課題を完成させる。(60分程度) ※<重要>毎週、期限内に1F・総合教養センター、あるいはGoogle Classroomへ課題を提出する。</p>
指導方法	<p>履修学生をクラス分けし、指導する。 対面授業では授業開始時に小テストを実施する。オンデマンド授業での読解問題学習と対面授業でのグループワークという隔週授業が基本である。 フィードバックの仕方：小テストは採点后、再提出・再テストの指示を明記した状態で返却する。オンデマンド授業時の課題には、全体に対して総括のコメントを行うとともに、必要に応じて個別に指導する。 ※課題に関する質問には個別に総合教養センターにて対応する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎D：課題の提出状況で評価する。 ○E：課題の提出状況と定期試験で評価する。 課題50%、平常点(授業内テスト、授業貢献度) 50%</p>
テキスト	<p>テキスト：毎回プリントを配布する。</p>
参考書	<p>『2024最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』オフィス海著(ナツメ社) 『大学生 学びのハンドブック』(世界思想社編集部) 『アカデミック・スキルズ ――大学生のための知的技法入門』(慶応義塾大学出版会)</p>
履修上の注意	<p>やむを得ず授業を欠席した場合は、速やかに1F・総合教養センターまで課題を確認し、取りに来て休んだ分の課題もこなしておくこと。毎回の演習・課題を積み上げることで最終的に目標が達成できるしくみとなっているため、全講座受講を目標に受講すること。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	<p>PBL型授業、ディスカッション、グループワーク、ミニプレゼンテーション、相互フィードバック</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
吉川尚志			
ナンバリング：G11C03			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業概要) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、またビジネスとしての礎を築くため、基礎となる計数分野と非言語分野を学修する。</p> <p>(授業目標) 高校までに修得した、修得すべき数学を見直し、得意な人は復習し、苦手な人はマスターする。</p> <p>(学習成果) ○C：課題への取り組みを通して大学生としてふさわしい論理的思考力を身につける。 ◎D：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。</p>		
授業計画	1	SPI非言語1 和差算	
	2	SPI非言語2 年齢算	
	3	SPI非言語3 植木算、方陣算	
	4	計数1 一次方程式、連立方程式、	
	5	計数2 単位の変換と割合	
	6	計数3 単位と割合、相当算、代金の計算、数列	
	7	SPI非言語4 損益算、周期算	
	8	SPI非言語5 鶴亀算	
	9	SPI非言語6 速さの問題	
	10	SPI非言語7 濃度算	
	11	SPI非言語8 仕事算	
	12	SPI非言語9 場合の数	
	13	SPI非言語10 旅人算、流水算	
	14	SPI非言語11 確率	
	15	SPI非言語12 さまざまな文章題	
到達目標・基準	○C：基礎問題の解法について、順序だてて説明することができる。 ◎D：基礎的な就職試験問題を解くことができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業内容を予習する。(30分程度) 事後学習：前回のプリントの解き直しとその回の課題プリントを仕上げる。課題プリントは、総合教養センターへ期限以内に提出する。(60分程度)		
指導方法	授業では毎回課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。		

アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：課題の提出状況と定期試験で評価する。 ◎D：課題の提出状況と定期試験で評価する。 定期試験 50%、平常点（受講貢献度、課題）50%
テキスト	毎回プリントを配布する
参考書	SPI非言語・言語：『2024最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』オフィス海著(ナツメ社)
履修上の注意	プリントの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バインダーを準備し、プリントを順次ファイリングすること。
アクティブ・ラーニング、PBL	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
吉川尚志			
ナンバリング：G11C04			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業概要) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、またビジネスとしての礎を築くため、基礎となる計数分野と非言語分野を学修する。</p> <p>(授業目標) 高校までに修得した、修得すべき数学を見直し、得意な人は復習し、苦手な人はマスターする。</p> <p>(授業目標) ○C：課題への取り組みを通して大学生としてふさわしい論理的思考力を身につける。 ◎D：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。</p>		
授業計画	1	SPI非言語1 和差算	
	2	SPI非言語2 年齢算	
	3	SPI非言語3 植木算、方陣算	
	4	計数1 一次方程式、連立方程式、	
	5	計数2 単位の変換と割合	
	6	計数3 単位と割合、相当算、代金の計算、数列	
	7	SPI非言語4 損益算、周期算	
	8	SPI非言語5 鶴亀算	
	9	SPI非言語6 速さの問題	
	10	SPI非言語7 濃度算	
	11	SPI非言語8 仕事算	
	12	SPI非言語9 場合の数	
	13	SPI非言語10 旅人算、流水算	
	14	SPI非言語11 確率	
	15	SPI非言語12 さまざまな文章題	
到達目標・基準	○C：基礎問題の解法について、順序だてて説明することができる。 ◎D：基礎的な就職試験問題を解くことができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業内容を予習する。(30分程度) 事後学習：前回のプリントの解き直しとその回の課題プリントを仕上げる。課題プリントは、総合教養センターへ期限以内に提出する。(60分程度)		
指導方法	授業では毎回課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。		

アセスメント・成績評価の方法・基準	C：課題の提出状況と定期試験で評価する。 D：課題の提出状況と定期試験で評価する。 定期試験 50%、平常点（受講貢献度、課題） 50%
テキスト	毎回プリントを配布する
参考書	SPI非言語・言語：『2024最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』オフィス海著(ナツメ社)
履修上の注意	プリントの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バインダーを準備し、プリントを順次ファイリングすること。
アクティブ・ラーニング、PBL	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
吉川尚志			
ナンバリング：G11C05			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業概要) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、また社会人としての礎を築くため、基礎となる計数分野を学修する。 (授業目標) 高校までに修得した、修得すべき数学を見直し、得意な人は復習し、苦手な人はマスターする。 (授業目標) ○C：課題への取り組みを通して大学生としてふさわしい論理的思考力を身につける。 ◎D：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。
授業計画	<p>第1回 複雑な計算、数字の英語 就職試験における複雑な計算問題をケアレスミスのない解法を学びます。また、英語での数字の読み方、数字の表記について学びます。</p> <p>第2回 集合 さまざまな調査結果の表をベン図を用いて整理して解く方法を学びます。</p> <p>第3回 場合の数 確率の計算のもととなる場合の数について学びます。</p> <p>第4回 確率の計算 第3回の場合の数をもとに、確率の計算を学びます。</p> <p>第5回 単位の変換 単位を表すアルファベットの意味を知り、その変換を学びます。</p> <p>第6回 年齢算 就職試験に頻出の年齢算、仕事算を学びます。仕事の進め方を考えるのに必要な内容です。</p> <p>第7回 割合 割合には歩合や百分率などもありますが、数学の基礎ともいえる内容です。これを理解することによって、苦手だった文章題もできるようになります。</p> <p>第8回 単位と割合 第5回の単位の変換と第7回の割合の複合問題です。</p> <p>第9回 損益算 就職試験に必出の損益算を学びます。仕事における最低限の考え方を学びます。</p> <p>第10回 濃度算 濃度算とはいうものの実は単なる割合ということを理解します。また%の感覚を身に付けます。</p> <p>第11回 規則性 数字や文字の規則性をいかに簡単に見つけるかを学びます。</p> <p>第12回 鶴亀算、平均 和算の1つに鶴亀算というのがありますが、それについて学びます。また、平均についてを学びます。</p> <p>第13回 旅人算、通過算、流水算 旅人算、通過算、流水算のいずれも速さの問題の応用です。</p> <p>第14回 仕事算 就職試験に頻出の仕事算を学びます。仕事の進め方を考えるのに必要な内容です。</p> <p>第15回 テストセンター対策 就職試験ではPCを用いた学力テストが課されることがありますが、その練習を行います。実際にPCを使用してテストセンターに近い状態で行います。</p>
到達目標・基準	○C：基礎問題の解法について、順序だてて説明することができる。 ◎D：基礎的な就職試験問題を解くことができる。
事前・事後学習	事前学習 授業内容を予習する。（30分程度） 事後学習 前回の課題プリントの解き直しと各回の課題プリントを仕上げ、総合教養センターで検印をもらうまでしつ

	かり取り組む。(60分程度) ※<重要> 毎週、期限内に1F・総合教養センターへ課題を提出する。
指導方法	授業では毎回、課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。 ※課題に関する質問には個別に総合教養センターにて対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：課題の提出状況と定期試験で評価する。 D：課題の提出状況と定期試験で評価する。 定期試験 50%、 平常点（授業貢献度、課題）50%
テキスト	テキスト：毎回プリントを配布する。
参考書	『2024最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』 オフィス海著(ナツメ社)
履修上の注意	プリントの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バインダーを準備し、プリントをファイリングすること。また、そのバインダーは毎回期日までに提出すること。 ※やむを得ず授業を欠席した場合は、授業で配布したプリントを速やかに1F・総合教養センターまで取りに行き指示に従うこと。 ※学習内容の定着のために春期セミナーの受講を勧める。
アクティブ・ラーニング、PBL	e-learning教材、Google Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
白川はるひ、村木桂子、江原数彦、澁木祥子			
ナンバリング：G12C06			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業概要) 自らのキャリア形成を考えるための入門編的授業である。①卒業直後および1年前期の目標設定と、その目標にむけての計画実践およびふりかえり、②就職活動に向けての準備、③人生100年時代のキャリア設計という3つの柱で授業を組み立てる。 (授業目標) 社会情勢を客観的にとらえながら自分自身の生き方を多角的に考え、一生続くキャリア(=生き方)選択の力を養う。 (学習成果) ◎B：社会情勢、労働、キャリア理論、および自己に対する理解を深め、卒業後の自らの生き方をより明確にすることで、自己の成長を目指して挑戦をすることができる。 ○C：自らの目標を明確に掲げて効果的な学びの計画をたて、その計画に基づいた実践と省察を繰り返すことができる。
授業計画	1 授業ガイダンス 人生100年時代の生き方1 (ゲスト講師) ・授業ガイダンス ・「キャリアデザイン」とは ・人生100年時代の生き方 (ゲスト講師) 2 就職活動に関して1 社会が求める力 (グループワーク) ・就職活動の流れ (キャリアセンター) ・社会が求める力とは 3 就職活動に関して2 ・就職活動関連サイトについて (キャリアセンター) 4 セルフマネジメント1 (グループワーク) ・効果的な目標の立て方 ・自律的学修力について 5 自己分析 (グループワーク) ・入学前までの自身の活動や感情などをふりかえり、自分自身への理解を深める 6 人生100年時代の生き方2 (グループワーク) ・卒業後の人生について考える 7 人生100年時代の生き方3 (ゲスト講師) ・さまざまな生き方や価値観に触れる 8 就職試験とは ・就職試験の種類や内容を理解する 9 インターンシップとは セルフマネジメント2 (グループワーク) ・インターンシップとは (キャリアセンター) ・セルフ・コーチングとは ・タイムマネジメント 10 企業とは 働くとは ・インターンシップ説明会を通して、企業や働くということについて考える (キャリアセンター) 11 履歴書の書き方 ・履歴書の書き方を理解する (キャリアセンター) 12 前期の省察と今後のキャリア計画1 ・前期の省察と今後のキャリア計画についてまとめる ・学生体験談 13 ビジネスマナー ・ビジネスメールの書き方、電話のかけ方など (キャリアセンター) 14 前期の省察と今後のキャリア計画2 (グループワーク) ・前期の省察と今後のキャリア計画について発表する 15 人生100年時代の生き方4 (ゲスト講師) ・これからの時代のキャリア形成、今後の労働市場について
到達目標・基準	◎B：社会の現状や業界、自分自身に関する理解を深めて目標をたて、自分なりの工夫をしながら目標達成に向けて取り組むことができる。

	○C：目標にむけた計画書を作成し、その実践結果を省察することができる。
事前・事後学習	事前学習 ・配布された課題文の読みこみ あるいは ワークシートへの書きこみ (30分) 事後学習 ・自らたてた行動計画の見直し、また、実践に関してのふりかえり (30分) ・授業内で指示された事後課題 (確認テスト、ふりかえり、ワークシートなど) への取り組み (30分)
指導方法	授業は主に、講義、個人ワーク、グループワークで進める。個人ワークを行ったうえでのグループワークになることが多いため、個人ワークにしっかり取り組むことが必要となる。 授業で学び、考え、目標に向かって計画をたてて実行し、それらをふりかえって次の授業に臨むという一連の流れを通して、自身に関する発見と探究をするPBL型授業でもある。 キャリアセンター職員による説明、ゲスト講師による講義などの週もある。 フィードバックの方法： 提出物に対しては、必要に応じ全体講評を通してフィードバックする。質問には適宜応じる。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎B：最終課題、提出物、授業貢献度によって評価する ○C：最終課題、提出物によって評価する 最終課題30% 平常点70% (提出物60%、授業への貢献度10%)
テキスト	無し。適宜プリントを配布する。
参考書	『PROGの強化書』 ※オリエンテーション時に配布されます。授業中に使用しますので、指示があるときには持参すること 大宮登 著『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座 第3版』日経PB社, 2019 村山昇 著『働き方の哲学』ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2018 藤村博之 編『考える力を高めるキャリアデザイン入門』有斐閣, 2021 岩上真珠, 大槻奈診 著『大学生のためのキャリアデザイン入門』有斐閣, 2014 鈴木義幸 著『理想の自分をつくる セルフトーク マネジメント 入門』ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2021 他
履修上の注意	・グループワークの多い授業である。履修者全員の力が伸びるよう、協力的に参加すること。 ・学科別に各教室で受講する週、全学科同時にホールで受講する週がある。連絡をしっかりと確認し、集合場所をまちがえないようにすること。 ・各自ファイルを用意し、ワークシートなどは保存しておくこと。最終課題作成時だけでなく、後期の就職活動の準備のときにも活用できる。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	総合：選択
担当教員			
橋本之克			
ナンバリング：G12C07	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 「行動経済学」は心理学の要素を取り入れた新しい経済学の新分野であり、人間が無意識に行う不合理な判断や行動を解明するものだ。人間心理を把握すれば、自分自身や周囲の人の行動をより良い方向に導くことができる。既に現実社会において、社会問題やビジネス課題の解決に活用されている。本講座では行動経済学の基本である、不合理な判断や行動のパターンをについて理解する。その知識をふまえて現実の課題解決における活用方法を考えていく。 (授業目標) 行動経済学とは何か、不合理な行動の基本的なパターンを理解し、不合理な行動を避け、より良い行動を促すことができる。 (学習成果) ○C：不合理な行動の原因を把握し、将来における不合理な行動を予測するなどにより、より良い行動を促す方法を考えられる。 ◎D：不合理な判断や行動のパターンを説明できる。
授業計画	<p>1 全体概要の解説／行動経済学とは何か 行動経済学の歴史、経済学との違い、人間のとらえ方、行動経済学を学ぶメリットを理解する。</p> <p>2 ナッジ ナッジの提唱者と基本的な考え方、環境問題、健康問題など現実社会での活用事例を理解する。</p> <p>3 ヒューリスティック① 短時間で手近な結論で判断を下す「ヒューリスティック」および関連する主な理論、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「利用可能性ヒューリスティック」「代表性ヒューリスティック」等</p> <p>4 ヒューリスティック② 判断を左右する「ヒューリスティック」に関して主な理論、現実には起きている事例について理解する。 主な理論：「ハロー効果」「確証バイアス」「平均への回帰」等</p> <p>5 プロスペクト理論① 価値の変化と人の反応に関する「プロスペクト理論」に関連する主な理論、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「損失回避」「保有効果」「現状維持バイアス」等</p> <p>6 プロスペクト理論② 損失を避けようとして、より大きな損失を生む「プロスペクト理論」に関して主な理論、現実には起きている事例について理解する。 主な理論：「イケア効果」「確実性効果」「保険文脈」等</p> <p>7 フレーミング① 対象の見せ方で見る人の判断や選択が変わる「フレーミング」および関連する主な理論、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「サンクコスト効果」「決定麻痺」等</p> <p>8 フレーミング② 人の見方を誘導し判断を狂わせる「フレーミング」に関して主な理論、現実には起きている事例について理解する。 主な理論：「ツァイガルニク効果」「ウィンザー効果」等</p> <p>9 時間割引 手に入れるタイミングで価値が変わる「時間割引」および関連する主な理論、これらを証明した実験や研究、現実社会の事例について理解する。 主な理論：「現在志向バイアス」「上昇選好」等</p> <p>10 その他の行動経済学の法則① 「自分を高く評価したい」と考える人の判断に関する理論と、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「認知的不協和」「コントロール幻想」「一貫性の原理」等</p> <p>11 その他の行動経済学の法則② 「他から良く評価されたい」と考える人の判断に関する理論と、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「バーナム効果」「フォールスコンセンサス効果」「ピグマリオン効果」等</p> <p>12 その他の行動経済学の法則③ 「社会や周囲に合わせたい」と考える人の判断に関する理論と、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「同調効果」「バンドワゴン効果」「準拠集団」等</p> <p>13 行動経済学に基づくマーケティング等の現象の解釈</p>

	<p>現実社会においてビジネスの成否を左右する心理的バイアスの事例と、成功や失敗の要因を理解する。 事例：ソーシャルゲーム、ネットオークション、ポイ活 等</p> <p>14 行動経済学における法則の総復習① 行動経済学の法則に関する理解度を確認する小テスト、および解説。</p> <p>15 行動経済学における法則の総復習② 行動経済学の法則に関する理解度を確認する小テスト、および解説。</p>
到達目標・基準	<p>○C：不合理な判断や行動を是正できる。 ◎D：不合理な判断や行動を説明できる。</p>
事前・事後学習	主に事後学習を行う。講義内容をふまえて不合理な判断や行動のパターンについて、自ら理解内容を確認する。課題が出た際は期限に合わせて作成や提出を行う。（事前2時間、事後2時間）
指導方法	講義によるインプットを中心に行う。新たに学んだ理論に関して理解度を測る確認テストを都度行う。小テストおよびその解説によって理論の理解を深める。フィードバックは、直後から事後までさまざまなタイミングで、理解度を高める資料提供等、複数の方法により行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>○C：個人ワーク等で提出された成果物、行動経済学の理解度を個人単位で評価する。行動経済学に関する思考、検討の積極性なども加味する。 ◎D：小テストの結果に対する評価を中心に、個人単位で理解度を評価する。 提出課題物（個人およびグループ）40%、小テストの結果 40%、授業における取り組みの積極性 20%</p>
テキスト	基本的に毎回の講義において、文章や図、静止画や動画などを配布または共有する。マイクロソフトのパワーポイント、またはPDFのデータを閲覧および保存できるパソコンが必要。
参考書	特になし。適宜、Web閲覧を求める
履修上の注意	人間心理に対する好奇心や関心をもっていることが必要。 パソコン必携。
アクティブ・ラーニング、PBL	個人ワークやプレゼンテーション、Google Workspace上でのワーク、PBL型学習など様々な形で行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	総合：選択
担当教員			
橋本之克			
ナンバリング：G23C11			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) ビジネス・コミュニケーションの学習においては、マーケティングを中心としたビジネス・コミュニケーション戦略の構築と遂行をテーマとする。コミュニケーションにおいて最も重要な「伝える相手＝ターゲット」の心理や意思決定プロセスの理解から始める。そのうえで、伝える内容の「コンセプト」をどうするか、使用する「方法（メディア）」をどうするか、「ブランド」を作ることで伝わりやすくする方法など、多様な要素について、またそれらの組み立て方を学ぶ。最終的には戦略の構築方法を身に付けることを目指す。授業の中ではビジネス現場におけるブランディングや広告の事例、人間心理を解明した行動経済学など実践的な知識を身に付ける。また自ら考える演習も行いながら幅広く学ぶ。
	(授業目標) コミュニケーション戦略に必要な知識の内容や活用方法を理解でき、コミュニケーションの戦略的な方法を考えられる。
	(学習成果) ◎C：コミュニケーション戦略が理解できる。 ○D：コミュニケーション戦略を構築できる。
授業計画	1 ビジネス・コミュニケーション全体概要 ビジネス・コミュニケーションの要素を把握する。効果的なコミュニケーションの事例を知る。 2 ビジネス・コミュニケーションの戦略 ビジネスのトレンド、市場のシェアや規模などを学ぶ。コミュニケーション戦略構築の前提となる、対象を理解する必要性を知る。基本的な思考フレームを理解する。 3 情報収集やリサーチ 情報収集や分析の手法を理解する。情報の種類やパターン、分析に必要な手法やフレームを理解する。 4 インサイト（深層心理）とは何か ターゲットのインサイト（深層心理）について事例をもとに理解する。関連する行動経済学についても学ぶ。 5 さまざまなインサイト（深層心理）と、深層心理を突く方法 ターゲットのインサイト（深層心理）をコントロールする手法、メディアを活用した広告などの事例を学ぶ。 6 コミュニケーションの核となるコンセプト コンセプトとは何か、コンセプトの役割、コンセプトの作り方と事例、コンセプト評価手法を理解する。 7 コミュニケーションに用いるメディア マスメディアやデジタルメディアの活用方法、ターゲットを動かす技法を知る。 8 ブランド戦略 コミュニケーションを効果的にするブランドとは何か、企業のブランドスローガンが伝える意味、ブランド浸透方法などを理解する。 9 ブランドの活用方法 アイキャッチ、視覚や聴覚へのアピールなど、ブランドを構成する多様な要素と活用方法を理解する。 10 コミュニケーション戦略の構築方法① 3C分析など戦略構築の前提となる分析手法を理解し、実践的に学ぶ。 11 コミュニケーション戦略の構築方法② 戦略の企画作りの方法について理解し、企画立案の思考についても実践的に学ぶ。 12 コミュニケーション戦略の構築方法③ 実際の戦略作りについてケーススタディを行う。 13 戦略企画のプレゼンテーション 事前に得るべき情報、伝え方と残し方、「暗記法」などのテクニックを知り、実践する。 14 チームで行うコミュニケーション戦略立案① グループワークにより、コミュニケーション戦略を構築：課題のオリエンテーションを受け、グループ討議と資料作成を行う。 15 チームで行うコミュニケーション戦略立案② グループワークにより、コミュニケーション戦略を構築：戦略の資料作成とプレゼンテーション実施。
到達目標・基準	◎C：コミュニケーションする対象物の差別点や優位点、ターゲットの特性を分析し、アピール方法を組み立てられる。 ○D：コミュニケーション戦略に必要なさまざまな知識の特性、用いるべき場面や使い方を理解できる

事前・事後学習	主に事後学習を行う。講義内容をふまえて実生活で見聞きし触れた販売や広告などのコミュニケーション事例に対して、自らの意見を整理する。課題が出た際は期限に合わせて作成、提出する。(事前30分、事後30分)
指導方法	講義によるインプットを中心に、個人ワークやグループワークによるアウトプットを随時行う。アウトプットされた成果物に対するフィードバックは、直後から事後までさまざまなタイミングで、口頭から文章コメントまで複数の方法により行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：個人ワークやグループワークで提出された成果物の評価を中心にグループワークへの参加状況も加味して、戦略の完成度やアイデアのユニークさをもとに個人単位の評価を行う。 ○D：個人ワークやグループワークで提出された成果物の評価を中心にグループワークへの参加状況も加味して、個人単位で理解度を評価する。 提出課題物（個人およびグループ）60%、授業における取り組みの積極性 40%
テキスト	基本的に毎回の講義において、文章や図、静止画や動画などを配布する。マイクロソフトのパワーポイント、またはPDFのデータを閲覧および保存できるパソコンが必要。
参考書	特になし。適宜、Web閲覧を求める
履修上の注意	ビジネス・コミュニケーション全般に対する好奇心、特にブランディングや広告に対する関心をもっていることが必要。 パソコン必携。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワークによる議論、個人ワークやグループワークのプレゼンテーション、Google Workspace上でのワーク、PBL型学習などさまざまな形で行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
久保田カオリ			
ナンバリング：G12C09			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 円滑なコミュニケーションのために、場面にあったヘアメイクをすることの有用性を理解する。 社会における自分像を確立していく一つの手段としてヘアメイクでの自己表現を考えていく。 前半はスキンケア、ヘアメイクの基本的な知識・技術を修得し、自分の顔で表現できるようにする。 後半はイメージ理論に沿ったメイクアップの方法を学び、場面にふさわしい身だしなみ（ヘアメイク）を学び自分の顔で表現できるようにする。 (授業目標) 客観的な視点から自身を分析し、場面に相応しいヘアメイクプランを立てられるように目指していく。 (学習成果) ◎D:場面にふさわしい身だしなみ（ヘアメイク）を理解し、自己表現することができる。 ◎E:基礎的なヘアメイクの知識を理解し、説明できる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法、使用する道具に関する説明。 Google ClassroomやZOOMの操作方法について。</p> <p>2 スキンケアの基礎 スキンケアの基礎知識、皮膚理論とスキントypesについて理解する。</p> <p>3 スキンケア&化粧品知識 化粧品選び、肌トラブルの原因とケア方法。</p> <p>4 スキンケアの実践（実習） 正しいスキンケア・クレンジングで健やかな肌を育てる。 自然な笑顔を作る表情筋トレーニング。</p> <p>5 顔のプロポーシオンと「印象分析」 自分の顔の特徴を客観的に分析し、インプレッションマップに基づいた印象タイプを理解する。</p> <p>6 ベースメイクのテクニック（実習） 肌色知識とトラブルカバーで美しい肌を作る。 コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・フェイスパウダーを実習する。</p> <p>7 チーク&リップのテクニック（実習） 骨格の把握と立体を理解する。 チーク・リップを実習する。</p> <p>8 アイブロウのテクニック（実習） 基本のバランスと形・色を理解する。 ペンシルとパウダーで自然な眉を実習する。</p> <p>9 アイメイクのテクニック（実習） 目元の観察と形・バランスを理解する。 基本のアイシャドウ・アイライン・マスカラを実習する。</p> <p>10 トータルメイク（実習） メイクの強弱やバランスを考え、場面に相応しいメイクを実習する。</p> <p>11 ヘアの基礎（実習） 基本のヘアテクニック。清潔感のあるヘアアレンジを実習する。</p> <p>12 セルフプロデュース（1）（PBL） 将来を見据えたセルフプロデュースを考える。 自身が希望する職業にふさわしいヘアメイクを調査し、ヘアメイクプランを考える。</p> <p>13 セルフプロデュース（2）（PBL） セルフプロデュース（1）で考えたヘアメイクプランをセルフで表現する。 制限時間内にヘアメイクを完成させる。</p> <p>14 プレゼンテーション（1）（プレゼンテーション） セルフプロデュース（1）、（2）の成果をプレゼンテーション形式で発表する。</p> <p>15 プレゼンテーション（2）（プレゼンテーション） セルフプロデュース（1）、（2）の成果をプレゼンテーション形式で発表する。</p>
到達目標・基準	◎D:場面にふさわしい身だしなみ（ヘアメイク）を理解できる。 ◎E:基礎的なヘアメイクの知識を理解できる。
事前・事後学習	事前学習：ヘアメイク情報誌や化粧品売場でスキンケア・ヘアメイクアップに関する情報を集める。（30分） 事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3回は自分の顔で実践することで、確実に技術が身に

	つけられるようにする。日本化粧品検定2級3級対策テキストを熟読し、授業の復習をする。(60分)
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・技術解説とデモンストレーションを行い、実際にセルフでヘアメイクアップの実習を行う。 ⇒授業内でアドバイスを行う⇒Google Classroom にセルフヘアメイクの写真提出⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ・知識テストと技術テストを実施する。 ⇒知識テスト結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ⇒技術テスト結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ・プレゼン形式で課題の発表を実施する。 ⇒Google Classroom に課題を提出⇒授業内でアドバイスを行う⇒結果を返却
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎D: 将来を見据えたセルフプロデュースを考え、ヘアメイクで自己表現を行い、プレゼンテーション形式で発表することで評価する。 ◎E: ヘアメイクに必要な基礎知識に関する筆記テストを行い評価する。</p> <p>実技50%、課題30%、授業への貢献度20%</p>
テキスト	<p>日本化粧品検定2級3級対策テキスト 小西 さやか (著), 日本化粧品検定協会 (監修), 株式会社主婦の友 (発行), 2017年6月20日第2版第5刷発行 (刊行日) ※「セルフビューティ論」を履修済みで、既に購入している方は改めて購入する必要はありません。</p>
参考書	なし
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・「セルフビューティ論」を履修することが望ましい。 ・実習はご自身の顔で行うので、ノーメイクになることが前提となる。 ・メイクの技術チェックや情報共有のため、人前でノーメイクの状態からモデルをすることがある。 ・ノーメイク、もしくはメイクした状態でアドバイスや評価を受けることがある。 ・実習のために肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 ・実習に必要なヘアメイク道具類を必ず各自で用意すること。 ・授業終了時にメイクを落とす必要がある場合も考えられるので、簡易的なメイク落としシートやメイク直しの道具を準備すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習、プレゼンテーション、PBL

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
吉川尚志、野地実穂、天元志保、大澤康太郎			
ナンバリング：G13A10			
添付ファイル			

<p>授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力</p>	<p>(授業概要) 現代社会においては、あらゆる職業においてPCとネットの活用が求められていると言っても過言ではない。本授業ではメール、インターネット、キーボードタイピング、ワープロ、表計算といった一般的に社会人に必要とされている技術を初歩から学ぶ。 文書作成・表計算・プレゼンテーションソフトの基本操作だけではなく、昨今多発しているコンピューター犯罪や炎上事件などのインターネットに関するトラブルから身を守る為の術を身につけることも本授業の目的である。</p> <p>(授業目標) パソコンで授業の課題作成ができるようになるだけでなく、将来社会に出た時にスマートフォンと同じように使いこなせるようになる。</p> <p>(学習成果) ○D：社会におけるコンピューターやネットワークに関する諸問題を理解し、その回避方法・解決方法を説明できる。 ◎E：PCを使用して自分の考えをまとめ、適切なアプリケーションを使用しドキュメント化することができる。</p>
<p>授業計画</p>	<p>1 ガイダンス ・本授業概要と他の科目との関係について ・Gmailの使い方、メールの作法（教員へのメール文例、「署名」の設定など） ・情報セキュリティ動画視聴「あなたのパスワード大丈夫？」</p> <p>2 本学の情報システム：学生用情報システムの設定確認と基本操作を学ぶ ・アクティブポータル、設定と操作 ・Zoomの利用方法や、画面の共有方法 ・MS Officeのインストール（希望する場合に大学のライセンスでインストール） ・情報セキュリティ動画視聴「あなたの書き込みは世界中でみられている」</p> <p>3 PC基本操作：OS操作を中心にPCの基本操作と用語を学ぶ ・PC、タブレット、スマホなど情報機器の用途や用語の学習 ・Google Classroomと教材・課題のDLの方法と提出方法 ・情報セキュリティ動画視聴「スマートフォン乗っ取り（デモ）」</p> <p>4 Google DriveとSlide ・Google Driveの仕組みや共有の注意点 ・Google Slideの作成と共有方法 ・Google keepでToDoリストをつくる ・情報セキュリティ動画視聴「その警告メッセージ、信じて大丈夫」</p> <p>5 Google DocumentとSpreadsheet ・Google Documentの作成と共有方法 ・Google Spreadsheetの作成と共有方法 ・Google formの使い方、QRコードを生成、アンケートを取る方法 ・情報セキュリティ動画視聴「乗っ取りの危険性があなたのスマホに」</p> <p>6 MS Office ・アプリの起動とファイル(Word、Excel、PowerPoint)の新規作成 ・ファイル操作とフォルダ管理 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、出会い系サイト」</p> <p>7 MS PowerPoint 1 ・新規作成 ・テーマの適用 ・プレースホルダー ・箇条書きテキスト ・スライドの実行 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、ネットショッピング」 ・関数の入力 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、ネットショッピング」</p> <p>8 MS PowerPoint 2 ・オブジェクトの挿入 ・スライドの構成の変更 ・画面切り替え効果の設定 ・アニメーションの設定 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、SNS」</p> <p>9 MS PowerPoint 3 ・PowerPoint演習問題 ・情報セキュリティ動画視聴「大丈夫、あなたのスマートフォン」</p> <p>10 MS Excel 1</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・新規作成 ・データの入力 ・保存 ・罫線の設定 ・数式の入力 ・関数の入力 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、ワンクリック詐欺」 <p>11 MS Excel 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表示形式の設定 ・列幅の変更 ・書式のコピー ・情報セキュリティ動画視聴「あなたのスマートフォン、ウィルスが狙っている」 <p>12 MS Excel 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Excelによる情報分析 ・グラフの活用 ・Excel演習問題 ・情報セキュリティ動画視聴「スマートフォンのワンクリック請求」 <p>13 MS Word 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規作成 ・配置の設定 ・フォントの設定 ・段落番号と箇条書き ・文字数と行のカウント ・保存 ・情報セキュリティ動画視聴「デモで知る標的型攻撃による乗っ取り」 <p>14 MS Word 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画像の挿入 ・SmartArtグラフィック ・表の作成 ・他のアプリのオブジェクトを貼り付ける ・情報セキュリティ動画視聴「陽だまり家族とパスワード」 <p>15 MS Word 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図表番号の設定 ・ページ罫線 ・ワードアート ・段組み ・タブとリーダー ・PDFファイルとして保存 ・Word演習問題（最終課題）
到達目標・基準	<p>○D：コンピューター犯罪や炎上事件などのネットに関するトラブルの例を説明できる。</p> <p>◎E：Word、Excel、PowerPointを用いた基本的な文書や表計算の作成、プレゼンテーションの作成や操作ができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：シラバスを参考に、次回使用するアプリケーションについて各自学習する。特に新しいアプリケーションを使用する回の前には、自宅のPCで該当するアプリケーションが正しく起動するかを必ず確かめる。(30分)</p> <p>日々のニュース、特にネットワークやセキュリティに関する情報をチェックする。(30分)</p> <p>事後学習：課題演習の多い授業である。苦手なアプリケーションの操作は次週までに克服するよう各自学習する。必要に応じてタッチタイピングの練習も行うこと。(30分)</p>
指導方法	<p>対面授業にて、スライド資料と講義動画で講義を進める。</p> <p>毎回、様々な課題が課され、その提出をもって出席とする。</p> <p>メールでの質問は随時受け付ける。</p> <p>演習は、パソコンの操作を中心に進める。</p> <p>文書作成はMS-Word、表計算はMS-Excel、プレゼンテーションはMS-PowerPointによる制作作業を行う。</p> <p>同様にGoogle Document、Spreadsheet、Slideの使い方の演習も行う。</p> <p>毎週の授業内容に加え、セキュリティに関する講義（オープンエデュケーション利用）も行われる。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>○D：授業内での質問と回答、小テストで評価する。</p> <p>◎E：Google Document、Spreadsheet、Slide、Word、Excel、PowerPointによる制作課題を評価する。</p> <p>課題提出60%、最終課題40%</p>
テキスト	授業内で動画等教材を配布する
参考書	講義内で適宜紹介する。
履修上の注意	毎回、PCおよびスマートフォンを使用した演習となるので、忘れずに携行のこと。 1回でも欠席すると、その後ついていくのが大変なため、休まないようにすること。
アクティブ・ラーニング、PBL	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
佐藤克己			
ナンバリング：G13C11	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業概要) 表計算ソフトを使用する職業は非常に多く、その操作スキルは社会で求められるものである。本授業では、代表的な表計算ソフトであるExcelの資格であるマイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS)の出題範囲に沿って学習を行う。問題形式、解答方法など合格に必要な知識を身に付けると共に、取得の意義を理解し、自分の学習計画を着実に実行できる自律的な実践力を養う。 (授業目標) ・MOS Excel合格かそれと同等の表計算ソフトの実践的なスキルを身に付ける。 ・目的達成に必要な学習を自己調整して、自発的に学習するスキルを身につける。 (学習成果) ◎C:資格合格を目標に、自ら学習計画を立て、修正・自己調整しながら実行できる。 ◎E:表計算ソフトの機能や操作方法を理解し、目的や要求に応じた操作が行える。		
授業計画	1	オリエンテーション 【オリエンテーション】 ・大学共通ルールの確認 ・授業の目的、スケジュール、評価基準 ・MOSについて ・資格取得の意義 【今回の事後学習】 ・シラバスを読み返す。 ・授業用Webサイトにアクセスする。 【次回の事前学習】 ・自分のPCでMicrosoft Excelが利用できることを確認しておく ・Microsoft Excelを起動して、触れておく。	
	2	Excelの基礎：Microsoft Excel 入門 【Excelの基本的操作】 ・Excelの起動・終了 ・セルの編集 ・オートフィル ・行の挿入、削除 ・列の挿入、削除 【演習】 ・世界の将来推計人口 ・大学の進学率 【今回の事後学習】 演習で作成したファイルを参考に、再度作成してみる。 【次回の事前学習】 ・教科書に沿って、各個人のペースで進める。(目安 出題範囲1-1から出題範囲1-3の終わりまで)	
	3	Excelの基礎：相対参照・絶対参照 【基礎演習】 ・四則計算、相対参照、合計、平均、最大値、最小値 ・相対参照、絶対参照 【応用演習】 ・売上構成比の計算 ・高齢化の推計 【今回の事後学習】 演習で作成したファイルを参考に、再度作成してみる。 【次回の事前学習】 ・教科書に沿って、各個人のペースで進める。(目安 出題範囲1-4から出題範囲1の確認問題まで)	
	4	Excelの基礎：条件分岐 【基礎演習】 ・条件分岐	

	<ul style="list-style-type: none"> ・条件分岐の入れ子 <p>【応用演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績付け・合否判定 ・少し複雑な成績付け・合否判定 <p>【今回の事後学習】 演習で作成したファイルを参考に、再度作成してみる。</p>
5	<p>【今回の事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に沿って、各個人のペースで進める。(目安 出題範囲2-1から出題範囲2-2の終わりまで) <p>Excelの基礎: まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎編の復習、ふりかえり ・教科書の進捗確認 <p>【今回の事後学習】 これまでに演習で作成したファイルを参考に、再度作成してみる。</p>
6	<p>【今回の事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に沿って、各個人のペースで進める。(目安 出題範囲2-3から出題範囲2の確認問題まで) <p>Excelの応用: 数値分析・順位・成績付け</p> <p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値分析 (質的データ、量的データ、尺度 等) <p>【基礎演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶対参照・オートフィルのおさらい ・合計・平均の計算 <p>【応用演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順位付け・成績付け <p>【今回の事後学習】 演習で作成したファイルを参考に、再度作成してみる。</p>
7	<p>【今回の事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に沿って、各個人のペースで進める。(目安 出題範囲3-1から出題範囲3-2の終わりまで) <p>Excelの応用: 統計処理</p> <p>【応用演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストの成績付け (1) ・テストの成績付け (2) ・BMI結果一覧 ・総合成績表 <p>【今回の事後学習】 演習で作成したファイルを参考に、再度作成してみる。</p>
8	<p>【今回の事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に沿って、各個人のペースで進める。(目安 出題範囲3-3から出題範囲3の確認問題まで) <p>Excelの応用: 最小二乗法等</p> <p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最小二乗法とは <p>【応用演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学と物理のテスト ・電気抵抗率 <p>【今回の事後学習】 演習で作成したファイルを参考に、再度作成してみる。</p>
9	<p>【今回の事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に沿って、各個人のペースで進める。(目安 出題範囲4-1から出題範囲4-2の終わりまで) <p>Excelの応用: 標準偏差</p> <p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準偏差とは <p>【応用演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身長分布 ・テスト評価 <p>【今回の事後学習】 演習で作成したファイルを参考に、再度作成してみる。</p>
10	<p>【今回の事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に沿って、各個人のペースで進める。(目安 出題範囲4-3から出題範囲3の確認問題まで) <p>Excelの応用: 売上・アンケート</p> <p>【応用演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上表 ・アンケートの集計

	<p>【今回の事後学習】 演習で作成したファイルを参考に、再度作成してみる。</p> <p>【今回の事前学習】 ・教科書に沿って、各個人のペースで進める。(目安 出題範囲5-1から出題範囲5-2の終わりまで) Excelの応用: 家計簿・授業欠席調査・県別人口</p> <p>【応用演習】 ・家計簿 ・授業欠席調査 ・県別人口</p> <p>【今回の事後学習】 演習で作成したファイルを参考に、再度作成してみる。</p> <p>【今回の事前学習】 ・教科書に沿って、各個人のペースで進める。(目安 出題範囲5-3から出題範囲3の確認問題まで) Excelの応用: 並べ替え・抽出</p> <p>【基礎演習】 ・並べ替え ・抽出</p> <p>【応用演習】 ・書籍データの並び替え ・書籍データの抽出</p> <p>【今回の事後学習】 演習で作成したファイルを参考に、再度作成してみる。</p> <p>【今回の事前学習】 ・教科書に沿って、各個人のペースで進める。(目安 第1回 模擬試験まで) Excelの応用: 総合問題 (1)</p> <p>【演習】 教科書の模擬試験3までを完了させる。</p> <p>【今回の事後学習】 演習で作成したファイルを参考に、再度作成してみる。</p> <p>【今回の事前学習】 ・教科書に沿って、各個人のペースで進める。(目安 第3回 模擬試験まで) Excelの応用: 総合問題 (2)</p> <p>【演習】 教科書の模擬試験5までを完了させる。</p> <p>【今回の事後学習】 演習で作成したファイルを参考に、再度作成してみる。</p> <p>【今回の事前学習】 ・教科書に沿って、各個人のペースで進める。(目安 第5回 模擬試験まで) Excelの応用: まとめ、全体の振り返り 教科書の出題範囲1から第5回模擬試験までを完了させる。 全15回を振り返り、理解度が十分でない分野を確認、復習する。</p> <p>【今回の事後学習】 ・教科書に沿って、出題範囲1から第5回 模擬試験までを完了させる。 ・演習で作成したファイルを参考に、Excelの利用法、使いどころを復習する ・振り返りを行い、理解度が十分でない分野を確認し、その分野の復習を行う。</p>
到達目標・基準	<p>◎C:資格合格を目標に、自ら学習計画を立て、修正できる。 ◎E:表計算ソフトの機能や操作方法を理解し、活用できる。</p>
事前・事後学習	<p>・事前学習: 授業内容・演習の復習 ・事後学習: 教科書に沿った学習 (進める目安は各回に指定)</p>
指導方法	<p>・演習は、パソコンの操作を中心に進める。 ・授業時間外に各自予習、復習が行えるよう、教材と動画配信を行い、事前事後学習時間の担保に努める。 学生へのフィードバックは、机間巡視にて逐次個別に行う。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎C:毎回の授業中の演習課題の提出、授業の振り返り、事後学習の課題提出の合計で評価を行う。 また、MOS Excelの合格認定証またはデジタル認定証を持参した学生は、評価を原則S評価とする。</p> <p>◎E:受験計画と結果を評価する。 また、MOS Excelを受験し、試験結果レポートを持参した学生は評価に加点する。</p> <p>・授業中の演習課題: 50% ・授業の振り返り: 10% ・事後学習の課題: 40% ・受験の参加、受験結果 (加点)</p>
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft Excel 365 対策テキスト& 問題集 (FOM出版)
参考書	

履修上の注意	<p>「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提となる。自身のPC持参が必要であり、さらに「Office 2021 日本語版」または「Microsoft 365 日本語版」がインストールされている必要がある。</p> <p>本授業では、Windows対応ソフトでの学習となるため、Macの場合は多少不便さがあることを理解した上で受講すること。 MOSを受講する学生はMOS試験の受験料が必要。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	自己調整学習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
大久保成			
ナンバリング：G13C12			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) この講義では楽しんでITツールを使いこなすということを目標にします。しかし使いこなすためには、時に反復練習や新しいことへの挑戦が必要です。そこで、みなさんにとって身近なメディアのひとつである動画を題材に、TikTokやYoutubeを活用して、デジタルコミュニケーション能力の向上を目指します。 (授業目標) 動画系SNSおよびウェブサイト制作を通じて、デジタルコミュニケーション能力のさらなる向上を目指します。 (学習成果) ◎A：スマートホンや映像編集ツールを使いこなし、受講生同士協力して、求められている課題を達成できる ○B：第三者にも分かるように自らの感性を言語化し、セルフプロデュースの一環としてウェブ版のポートフォリオを完成させる
授業計画	1 ガイダンス 講義内容、講義の進め方などの説明、連絡用ツールの設定 なお、すべての回で、PC及びスマホを用います 2 お気に入りの動画を紹介する 各人が「流行っている」と思う動画を持ち寄り分析する 3 編集ツール入門 映像編集のツールを整える。基本操作を学び、自己紹介動画を作成する 4 編集技法 (1) 編集技法の実際を体験する。カメラトランジションを予定 5 編集技法 (2) CG合成機能 6 編集技法 (3) テンプレート機能を使ってみる 7 編集技法 (4) 絵コンテ通り撮影する 8 編集技法 (5) 絵コンテ通り撮影・編集する 9 編集技法 (6) 自動音声読み上げ機能を使ってみる 10 作品制作 (1) 「シネマティック」な動画を制作する 11 作品制作 (2) 「シネマティック」な動画を制作する 12 ウェブサイト構築 (1) Googleサイトの基本編集方法を学ぶ 13 ウェブサイト構築 (2) Googleサイトに動画を掲載する 14 ウェブサイト構築 (3) ウェブサイトをポートフォリオとして活用できるように充実させる 15 まとめ、講評 担当教員による講評、講義のまとめ
到達目標・基準	◎A：動画系SNSに制作した作品を一定数以上公開する ○B：動画をまとめたウェブサイトを作成する
事前・事後学習	事前学習 動画系SNSを巡回し、トレンドを学ぶ。次回講義の準備(提案)をする(1時間) 事後学習 作品を完成させ、公表する(2時間)
指導方法	講義はパワーポイントを使用します。また各種動画系SNSを利用します。 Googleクラスルーム等を用いて、教室の内外での積極的な参加を促します。デジタルツールを用いることで、

	人前で発表するのが苦手な学生でも、積極的に講義に参加できるようになると期待しています。また講師からのフィードバックもデジタルツール上で行い、配慮を要する個別の質疑以外は、クラス内で情報共有できるようにします。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：作品の公開数を評価します ○B：動画作品をまとめたウェブサイトの完成を必須とし、その内容を評価します 成績評価の方法 筆記試験なし：課題提出による評価 評価の基準： 動画課題の提出：50%、ポートフォリオサイトの作成/提出：20%、授業態度30%
テキスト	独自資料をもちいます。希望に応じて可能な範囲で講義資料を共有します。
参考書	講義内で必要に応じ提示します
履修上の注意	【必読】自分自身を被写体として使う実習があります。TikTokやYouTubeなどを利用しますので、いわゆる「顔出し」やSNS投稿に抵抗のある方の受講はお勧めしません。また制作された作品はすべて教室で上映されます。 【その他注意事項】PCの持参、スマホの持参が必須です。両者がないと講義の受講ができません。SNSへのサインイン、アプリの導入を行います。アプリ等はできる限り無料の範囲で活用できるように配慮します。ペアレンタルコントロールなどは外しておいて下さい。スマホのバックアップ手段を必ず確保して下さい。学外で撮影することもあると思います。通信容量も可能な限り確保しましょう。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業、グループワーク、PCとスマホを使った演習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
江原数彦			
ナンバリング：G13C13			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) Microsoft Wordの中級レベル機能を紹介しながら、既存のビジネス文書作成方法にとらわれることなく、自由なレイアウトを行い、魅力的で楽しい販売促進ツールを制作する授業。授業ではWordの操作だけでなく、わかりやすくインパクトのある広告を制作するビジュアルデザインの手法も学べるよう進めていく。 (授業目標) 提示された課題を元に、図形やワードアート等の操作機能を習得し、かつ人の目に留まる情報が伝わりやすいレイアウト方法を理解し実践すること。 (学修成果) ◎B：授業を通して習得した技術を組み合わせて、目標としたレイアウトをWordで形に仕上げることが出来る。 ○D：視覚に訴えかけるレイアウト法について理解し、制作作品に活用することができる。
--	--

授業計画	1 授業の目的やデザインの役割を理解する。／ポートフォリオ用のサイトを構築する。 ・授業の目的や受け方、評価の仕方等を理解する ・目的に適したレイアウトがあることを理解する ・ポートフォリオをまとめるGoogleサイトの構築を行う 2 文字で、デザインしよう／ポスター制作 ・フォントに関する知識を身に付ける ・フォントのダウンロードを体験する ・テキストボックスの活用方法を知る ・ワードアートの操作方法について理解を深める ・文字だけのポスターを制作する 3 画像をフル活用しよう／ポスター制作 ・多種ある画像の挿入操作方法について理解する ・画像のトリミングや切り抜く方法について理解する ・画像使用上の著作権についての知識を身に付ける 4 図形をフル活用しよう／図を使ったロゴマークやキャラクターの制作 ・図形作成の基礎操作方法を理解する ・図形同士の接合・切り出しをパワーポイントで行う方法 ・複雑な図形・イラストをワードで描く方法を理解する ・オリジナルロゴマークやキャラクターを制作する 5 図形をフル活用しよう／地図を作成しよう ・図形機能を使って、地図を作成する 6 中間定期課題：ポスターを作ろう ・ここまで学んできた操作方法の習熟度を課題制作を通して確認・復習する 7 テーマ課題制作／ビジネスの場で活用できるカタログを制作しよう① ・課題見本を参考に、習得した技能を活かして商品カタログを制作する 8 テーマ課題制作／ビジネスの場で活用できるカタログを制作しよう② ・課題見本を参考に、習得した技能を活かして商品カタログを制作する 9 テーマ課題制作／ビジネスの場で活用できる広報資料を制作しよう① ・課題見本を参考に、習得した技能を活かして広報資料を制作する 10 テーマ課題制作／ビジネスの場で活用できる広報資料を制作しよう② ・課題見本を参考に、習得した技能を活かして広報資料を制作する 11 テーマ課題制作／雑誌の1ページを制作しよう① ・課題見本を参考に、習得した技能を活かして雑誌の1ページを制作する 12 テーマ課題制作／雑誌の1ページを制作しよう② ・課題見本を参考に、習得した技能を活かして雑誌の1ページを制作する 13 期末テーマ課題制作／自分紹介のページを制作しよう① ・自分を他者に説明（アピール）する目的で、写真・イラスト・文章をふんだんに使用した、雑誌形式のページを制作する ・課題の詳細を理解する。 ・扱うコンテンツを考え、レイアウトを考える。 ・写真・イラスト・文章などの素材用意の計画を立てる。 14 期末テーマ課題制作／自分紹介のページを制作しよう② ・自分を他者に説明（アピール）する目的で、写真・イラスト・文章をふんだんに使用した、雑
------	--

	<p>誌形式のページを制作する 期末テーマ課題制作／自分紹介のページを制作しよう③ ・自分を他者に説明（アピール）する目的で、写真・イラスト・文章をふんだんに使用した、雑誌形式のページを制作する</p>
到達目標・基準	<p>◎B：提示された課題の指示に従い、バランスの取れた作品を仕上げることができる。 ○D：自身でレイアウトを考え、自分の設計通りに作品を仕上げることができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：街中で見かけるポスターをチェックし、レイアウトの良い点と悪い点を考え、メモに残しておく。（30分程度） 事後学習：自分の制作した作品が、指示通りにできているかチェックをし、できていない部分に関しては修正を行う。（30分程度）</p>
指導方法	<p>制作する作品テーマごとにWordの機能を紹介し、課題作品を制作することによって、自身で自由に操作できるよう指導する。制作して作品に関しては提出し、指導教員の添削を入れ、フィードバックする。フィードバックされたものは自身で修正し、再提出することで、操作や知識の習得を狙う。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎B：毎時の課題提出物を評価する。 ○D：自由課題での作品を評価する。 事前学習課題の提出：20% 毎時の課題提出：60% 自由課題：20%</p>
テキスト	<p>毎時プリントを配布するため、A4サイズのプリントがファイリングできる「ファイル」を用意しておくこと（クリアファイルは不可）。</p>
参考書	<p>特になし。</p>
履修上の注意	<p>将来Wordを活用する事務職を希望する学生、グラフィックデザインに興味がある学生に向いている。なお、Wordの基礎操作知識（文字入力・段落設定・図形の作成・表の作成）があることを前提とする。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	<p>実技型授業（一部PBL型授業）</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
森田翔			
ナンバリング：G14C14	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) プレゼンテーションの3大要素である「プレゼンス（人間力：誰が伝えるか）」「シナリオ（構成力：何を伝えるか）」「デリバリー（伝達力：どのように伝えるか）」の基礎を学び、社会人として身に付けるべき人間関係の原則について実体験を伴って理解する。 (授業目標) 誰にでも再現可能な型として体系的にスキルを習得することで、自信が身に付き、人前で話すことが好きになり、社会人として即戦力の人材を育成する。 (学習成果) ◎C：人の心を動かし、具体的な行動に繋げて、周囲に影響力を発揮することができる ○D：習得したスキルを単なる知識に留めるのではなく、状況に応じて的確に活用することができる		
授業計画	1	講座の内容と進め方 ・プレゼンテーションの基本原則 ・心をつかむ話し方 ・現状と理想の明確化	
	2	選ばれる自己紹介の作り方 ・自己分析 ・キャッチフレーズ ・鉄板の1分自己紹介	
	3	興味を惹きつける伝え方 ・当事者意識 ・問題意識 ・理想意識 ・プロセス意識	
	4	感情を揺さぶる伝え方 ・ゴールデンサークル理論 ・ギャップ ・宣言効果	
	5	論理的で分かりやすい伝え方 ・ホールパート法 ・PREP法 ・ピラミッドストラクチャー	
	6	説得力を持たせる伝え方 ・対比 ・具体例 ・社会的証明	
	7	ファンをつくる伝え方 ・ビジョン ・ストーリーテリング ・神話の法則	
	8	緊張のコントロール方法 ・緊張は敵か味方か ・緊張の正体 ・科学的根拠に基づく対処法	
	9	資料の作り方と原稿の覚え方 ・構想フェーズ ・作成フェーズ ・実践	
	10	成果が上がる事前準備の方法 ・返報性の法則 ・反論処理 ・最終発表会の準備	
	11	最終発表会のルール説明 最終発表会の資料と原稿を推敲する	
	12	最終発表会の予選会 参加人数が30名以上の場合は予選会を実施し、最終発表会の登壇者を決定する	

	13	最終発表会1日目（ホール） 学習成果を発表する
	14	最終発表会2日目（ホール） 学習成果を発表する
	15	最終発表会3日目（ホール） 学習成果を発表する
到達目標・基準	◎C：プレゼンテーションの目的を理解し、情報をわかりやすく伝えて、想いを表現することができる ◎D：目的を達成するための手段を理解し、適切な手順で資料を作成して、発表することができる	
事前・事後学習	事前学習：前回の授業内容を復習する（30分） 事後学習：毎回の授業課題に取り組む（30分）	
指導方法	授業の進行は基本的にパワーポイントを使用し、形式は一方的な講義でなく積極的な実践を多く取り入れる。インプット→アウトプット→フィードバックを繰り返すことで、スキルを「知っている」状態から「できる」状態にする。 質疑応答の時間を十分にとり、可能な限り不明な点や不安な気持ちを解消する。	
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：授業での個人発表、グループ発表、および授業課題の撮影動画から総合的に評価する。 ◎D：授業課題の発表原稿、発表スライド、およびレポートから総合的に評価する。 期末試験に代替する発表会40%、授業での発表および授業課題40%、授業態度および貢献度20%	
テキスト	なし。適宜プリントを配布する。	
参考書	なし。	
履修上の注意	一般的にプレゼンテーションスキルは個人差が大きいとされるが、自分と他人を比較して落ち込む必要はまったくない。自分の特徴を理解してそれを磨くことで、誰もが聞き手に強力な印象を与える唯一無二の話し手になることができる。各自が現状の課題と理想の状態を明確にして、主体的に目標達成を目指してほしい。また、ビジネス現場において圧倒的に結果を出し続けている人は、インプットよりアウトプットを重視している。失敗を前向きに捉えて、発表を恥ずかしがらず、積極的に挑戦してほしい。楽ができる単位ではないが、プレゼンが得意な人も苦手な人も大きく成長することができる。真剣に受講すれば、一生役に立つ実力が手に入ることを約束する。この授業は、経営者や事業家などのプロフェッショナルを対象にプレゼンテーションの指導を行っている日本つかみ協会の講師陣により行われる。	
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
小野田奈徳			
ナンバリング：G14C15	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業概要)</p> <p>心理学は、人の心のはたらきを研究する学問であり、学習心理学・発達心理学・性格心理学・社会心理学・臨床心理学等、多様な領域にわたる。多様な領域の中から、学生の関心が高く、また学生と関わりが深いと思われるテーマを選び、そのテーマについての理論や概念を学ぶ。日常生活に関連するような内容も含まれているので、各自考えを深め、生活の中で応用できるように具体的な例を多く出しながら講義をすすめる。</p> <p>(授業目標)</p> <p>日常生活の様々な物事や感情を心理学の視点から捉え、理解すること。</p> <p>(学習成果)</p> <p>○A：対人関係にまつわる心理学の理論を通じて、人の話を聴き、自分の考えを上手に伝える力を身につける。</p> <p>◎D：日常生活における様々な物事について新しい視点を知ること、物事を多面的に深く考え行動できる力を身につける。</p>		
授業計画	1	オリエンテーション 心理学とはどのような学問か？	
	2	動機付け “やる気”のこころの働きを知る (PBL)	
	3	マインドフルネス マインドフルネスの考え方から心のほぐし方を学ぶ	
	4	感覚・知覚・認知 人はどのように環境や情報を捉えているのか	
	5	発達 人の発達を学ぶ	
	6	青年期の心理 青年期特有の心理発達を学ぶ	
	7	性格 「人生の木」から見つめなおす	
	8	対人関係と恋愛心理 心理学の視点から対人関係と恋愛について考える	
	9	対人関係とコミュニケーション① 自分の気持ちを上手に伝える方法を考える (PBL)	
	10	社会の中の心理 人の態度(考え・評価)が変わるときとは	
	11	集団の心理 集団の力で起こる心理を学ぶ	
	12	ストレスの心理学 ストレスの仕組みと対処を考える	
	13	心理療法から学ぶ 捉え方の工夫を学ぶ (PBL)	
	14	勉強を頑張るコツ 勉強を頑張るコツを心理学の視点から考える	
	15	対人関係とコミュニケーション② 人の話を上手に聴く方法を考える	
到達目標・基準	○A：実際の対人関係の場において、上手なコミュニケーションのための工夫を取り入れて応用できる。 ◎D：日常生活で当たり前として考えることになかったような物事にも違う視点があるということを知り、視野を広げて捉え行動することができる。		
事前・事後学習	事前学習：生活の中で生じる疑問や相談したいような気がかりなことについて意識して考えてみる。(90分) 事後学習：自身の生活に照らし合わせながら、講義の内容を振り返る。日常生活に取り入れられそうなことを実践してみる。(90分)		
指導方法	授業は原則として、プロジェクターを使用し、パワーポイントや図表等を示し、それに沿った講義を行う。また、心理学という学問を体験的に理解できるよう、ワークシートを使って日常生活に応用できるよう練習す		

	る。講義終了時に、毎回コメントペーパーを書かせ、疑問の解消や講義のふりかえりと整理を行えるようにする フィードバックの方法：コメントペーパーに書かれた疑問点や質問には次の回で全体に向けて回答、または学生に問いかけて解決していく。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○A：受講態度（コメントペーパー含む）とレポート課題を評価する。 ◎D：受講態度（コメントペーパー含む）とレポート課題を評価する。 レポート課題70% 受講態度（コメントペーパー含む）30%
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	『心理学』 東京大学出版会 『心理学の基礎 改訂版』 培風館
履修上の注意	他者の心理を読み取る術や他者を操作する方法などは心理学の学問ではないことを理解して受講すること（講義内容にもこのような内容は含まれていない）。 心理学は、それぞれが自身の体験に引き付けながら学ぶことにより一層関心が持てる学問であるので、積極的に学ぶ姿勢を持って講義に参加することがのぞましい。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	2	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：G14C16	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業概要) この授業では文学を単に読解するのではなく芸術として全体を鑑賞する。芸術に触発されてものごとの本質に触れることの奥深さ、喜びを味わい、心ふるえる経験を積み重ねることにより、生涯を通じて形成される教養・価値観・感性などの基盤づくりを目指す。 (授業目標) 芸術によって呼び起こされた“未だ知り得ない自分”を感じとり、それを表出することによって「自分にとってかけがえのないものとは何か」を探り、自己、また他者との向き合い方を見つめなおす。 (学習成果) B：自分の意見を持ち、相手の意見も受け入れながらお互いを尊重し合うことができる。 ○D：授業で得た知識を理解し、興味を持ったことがらについて主体的に情報を得、学びを深めることができる。 ◎E：自分なりの言葉を用い、授業で得たことについて表現することができる。
授業計画	<p>1 オリエンテーション、芸術と出会うということ（グループディスカッション） 授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明 教材を踏まえたグループディスカッション、2つで1つのものは何か ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用）</p> <p>2 彫刻：船越保武／神谷美恵子『生きがいについて』（グループディスカッション） 美しさとは何か、生きがいとは何か ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用）</p> <p>3 九鬼周造『いきの構造』（グループディスカッション） 経験から学ぶこと ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用）</p> <p>4 絵本『てぶくろを買いに』『泣いたあかおに』『おにたのぼうし』（グループディスカッション） 異文化理解・相互理解 ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用）</p> <p>5 ミヒャエル・エンデ『モモ』（グループディスカッション） あなたが、あなたらしくなる「星の時間」 ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用）</p> <p>6 中原中也『在りし日の思い出』（グループディスカッション） 他と比べられない世界 ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用）</p> <p>7 東山魁夷という文学（グループディスカッション） あちらとこちらの世界をつなぐもの ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用）</p> <p>8 シェイクスピア『ロミオとジュリエット』 人と何かを共有することの豊かさ ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用）</p> <p>9 ペスト、十牛図 不条理と向き合うこと ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用）</p> <p>10 サンテグジュペリ『星の王子さま』 あなたにとって「バオバブの木」は何か ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用）</p> <p>11 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』 ほんとうの幸い ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用）</p> <p>12 夏目漱石『夢十夜』 色と香りの伝わる文学 ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用）</p> <p>13 世界から見た日本の美意識（1） 絵画や工芸を中心に</p> <p>14 世界から見た日本の美意識（2） 絵と文字の交わり</p> <p>15 世界から見た日本の美意識（3） 現在の我々の生活とのつながり</p>

到達目標・基準	B：他者の言葉に耳を傾けながら、自分の意見も人に伝えることができる。 ○D：授業で得た知識を理解し、人に伝えることができる。 ◎E：授業で学び得たことについて味わい感じたことを、表現することができる。
事前・事後学習	事前学習：日ごろから美術、音楽、文学などジャンルを問わずさまざまな芸術と出会う機会を持つ。（60分程度） 事後学習：授業で学んだことからの要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。（60分程度） 授業中に紹介された本や資料を読み、芸術一般についての興味・関心を広げる。（60分程度）
指導方法	すぐれた芸術作品に触れ、演習（グループディスカッション、ペア・ワーク）を踏まえたリアクションを毎回書くことにより、自分が感得したものと丁寧に向き合う。正解よりも思考を深めることを重視する。パワーポイントを中心に講義をおこない、必要に応じて視聴覚教材も使用する。 フィードバックのしかた：課題の成果を授業中に共有し、講評する。質問には個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：相手の意見を受け入れつつ、自分の意見も持つ積極的な姿勢を評価する。 ○D：提出物、試験によって評価する。 ◎E：提出物、試験によって評価する。 定期試験：60%、授業後の提出物：40%（総合的に評価する）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	個人で取り組む課題や意見を交換しながらの演習があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要であるため、課題は必ず提出すること。受講者の興味・関心等に応じて授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラーニング、PBL	ディスカッション、ペア・ワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：G14C15	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業概要)</p> <p>国語力の四要素(話す・聞く・書く・読む)のトレーニングを総合的に積みあげるにより複眼的思考、論理的思考といった考えかたの基礎力を養い、専門科目の学びを深め、発展させることに役立てる。</p> <p>(授業目標)</p> <p>ペア・ワーク等かかわりを通して課題に取り組むことによりコミュニケーション力を高め、社会で活用できる日本語の力を身につける。</p> <p>(学習成果)</p> <p>○D：受信した情報について考え、意見をまとめ、根拠を提示しながら発信することができる。</p> <p>◎E：授業で学んだ日本語の知識について理解し、使用することができる。</p>		
授業計画	1	ガイダンス (ペア・ワーク) 言葉をめぐるワーク、授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明 ICT：パソコン、スマートフォン (自主学習に活用)	
	2	敬語 (ペア・ワーク) 社会人基礎力を身につけるために ICT：パソコン、スマートフォン (自主学習に活用)	
	3	感じのいい話しかた (ペア・ワーク) コミュニケーションの基礎、日本語の音声 ICT：パソコン、スマートフォン (自主学習に活用)	
	4	母語の大切さ (ペア・ワーク) 外国語から見た日本語の特徴 ICT：パソコン、スマートフォン (自主学習に活用)	
	5	オノマトペ (ペア・ワーク) 豊かな言語生活 ICT：パソコン、スマートフォン (自主学習に活用)	
	6	辞書のいろいろ (1) (ペア・ワーク) 辞書の特色について ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用)	
	7	辞書のいろいろ (2) (ペア・ワーク) 図書館での辞書比較 ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用)	
	8	説明のしかた (ペア・ワーク) 情報提示の順序を学ぶ論理的文章の書きかた (中級) ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用)	
	9	絵の分析 (ペア・ワーク) 根拠ある意見の述べかた ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用)	
	10	テキスト分析 (1) (ペア・ワーク) 論理的文章の書きかた (初級) ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)	
	11	テキスト分析 (2) (ペア・ワーク) 論理的文章の書きかた (中級) ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)	
	12	話し言葉と書き言葉 (ペア・ワーク) 社会人としての言語運用能力 ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)	
	13	対義語 (ペア・ワーク) ニュアンスの感得、注意深い言葉の選択 ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)	
	14	日本語の文字 (ペア・ワーク) 私たちが使用する文字の由来 ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)	
	15	言葉遊び 言葉を分解し再構築することで生まれる新たな世界 ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)	

到達目標・基準	○D：他者の言葉に耳を傾け、自分の意見を人に伝えることができる。 ◎E：授業で学んだ日本語の知識について理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：日ごろからジャンルを問わずさまざまな本（活字）に触れ、多様な言葉の感覚を磨く。（60分程度） 事後学習：授業で学んだ日本語の知識について要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。（60分程度） 授業中に紹介された本や資料を読み、日本語について興味・関心の幅を広げる。（60分程度）
指導方法	ペア・ワーク（対話）を中心として、正解よりも考えることを重視した授業を行う。テーマごとに口頭演習した内容を文章で再確認することにより、日本語コミュニケーション力を「話す・聞く・書く・読む」の観点から総合的に養う。講義は主にパワーポイントで進め、視聴覚教材も適宜利用する。 フィードバックのしかた：課題の成果を授業中に共有し、講評する。質問には個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：ペア・ワークにおける聞く態度や、授業中の積極的な発言、提出物を評価する。 ◎E：試験によって評価する。 定期試験：70%、授業中の課題提出20%、授業参加態度10%（総合的に評価する）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	ペア・ワークや個人で取り組む課題があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要である。
アクティブ・ラーニング、PBL	ペア・ワーク、ディスカッション、PBL型授業

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
澁木祥子			
ナンバリング：G14C18			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 「健康」という大きなテーマの中から、現代社会が及ぼす心身への影響について重点をおきながら、自身の「健康」とは何かを探る授業とする。 (授業目標) 健康に関する知識を修得するとともに、グループワークを実施し、他者との意見交換を実施し自身の考えを深める。 (学習成果) ○A：学生間のグループ討議を通して積極的に人と意見交換を実施し、生涯に通ずる「健康」のあり方を自分自身で探ることができる。 ◎D：現代社会が及ぼす心身への影響についての知識を身につけることができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 目的、授業における留意点、成績評価、自分にとっての健康とは何か</p> <p>2 健康の定義（グループワーク：グループごとにまとめを発表） WHOによる健康の定義</p> <p>3 身体と教育 第二次世界大戦前～第二次世界大戦後～現代</p> <p>4 現代社会と健康1 日本の健康問題</p> <p>5 現代社会と健康2（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 世界の健康問題</p> <p>6 現代社会におけるストレスと健康のかかわり1 身体の健康とメンタルヘルス</p> <p>7 現代社会におけるストレスと健康のかかわり2 ストレスとストレスコーピング</p> <p>8 人間関係 話す力と聞く力について考える</p> <p>9 発達段階と健康1（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 幼児期における運動の意義</p> <p>10 発達段階と健康2 健康と余暇活動を考える</p> <p>11 発達段階と健康3（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 高齢者における健康</p> <p>12 ライフスタイルと健康 生体リズムと睡眠</p> <p>13 救急法 障害時の救急、災害時の対応</p> <p>14 女性の健康（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 女性の身体について</p> <p>15 健康とは 生涯を通じて自分にとって健康とは何かを考える</p>
到達目標・基準	○A：他者の意見を聴き、その上で自身の考えをまとめることができる。 ◎D：現代社会の課題について理解し、自身のライフスタイルと関連づけることができる。
事前・事後学習	事前学習：健康に関するニュースや本に眼を通すように心がける。（90分程度） 事後学習：授業で得た知識を一過性のもので終わらせないように、毎授業終了時にGoogleフォームを作成する。また、個人で配布した資料を整理し、実践していくようにこころがける。（90分程度）
指導方法	講義は基本的にパワーポイントを使用して進める。 適宜、グループワークを取り入れる。 意見交換を積極的に行う中で「健康とは何か」を自覚できるようにする。

	フィードバックの仕方：Googleフォーム提出後、評価の上返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○A：グループ討議での態度、授業への貢献度を評価する。 ◎D：授業終了時のまとめプリント・レポート、定期試験を評価する。 受講態度10%、授業終了時に提出するGoogleフォーム・レポート30%、定期試験60%
テキスト	なし 必要な資料・プリントをその都度配布する。
参考書	「健康管理能力検定3級公式テキスト」 一般財団法人 全国健康管理能力検定協会 監修 「健康管理能力検定2級公式テキスト」 一般財団法人 全国健康管理能力検定協会 監修 「健康・体力・スポーツ 大学生のための保健体育理論」 横浜保健体育理論研究会 編 学術図書出版 「人間関係づくりトレーニング」 星野欣生著 金子書房 「健康・運動の科学 介護と生活習慣病予防のための運動処方」 田口貞善監修 講談社
履修上の注意	自分にとっての健康とは何かを考えながら、積極的な姿勢で授業へ臨むこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、アクティブラーニング、PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
五十嵐淳子			
ナンバリング：G14C19			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 子どもの発達段階を踏まえ、子どもの育ちを支えるために求められる知識と保育技術、保育・教育内容にかかわることを総合的に学ぶことである。 (授業目標) 授業のねらいは、子どもの遊びと成長について基礎的な知識を理解することである。 子どもの育ちにとって必要な知識や教材を説明し、実際に教材を製作して使用することができる。 (学習成果) ◎D：子どもの発達の道筋を知り、子どもの成長を育むために必要な知識を修得できる。子どもの発達を学び、子どもに必要な関わりや現代の子育てを取り巻く問題について自分なりの考えをもつことができる。 ○E：保育教材の製作を通して豊かな感性を身に付けることができる。
授業計画	<p>1 オリエンテーション 子どもの成長とは 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明</p> <p>2 グローバル化と子ども グローバル社会における子どもの理解</p> <p>3 胎児期と母親 子育て支援の事例から 胎児期と母親の子育て支援</p> <p>4 乳幼児期の発達過程と遊び 乳幼児期の発達と子どもの遊びについて</p> <p>5 子どもと言葉 子どもの言葉の発達から見る子どもの英語教育</p> <p>6 保育教材について 子どもと一緒に楽しむことができる保育教材の製作</p> <p>7 国際理解と教育・保育 ドイツの事例を通じた国際理解教育と保育</p> <p>8 小学校への入学 就学前の保育から小学校への接続期について扱う。小学校に入学するまでに身につけたい力について概説する、また、小学校に入学する子どもの発達の特徴について、概説する。</p> <p>9 児童期の教材について 小学校の児童を対象とした児童期における教材の製作</p> <p>10 小学校低学年から高学年 小学校低学年から高学年の児童の発達の特徴について</p> <p>11 現代社会を取り巻く子育てと保育 現代の子育てと保育を取り巻く現状と課題</p> <p>12 子どもの遊び①：絵本の製作 絵本の意義について理解を深めるため、実際にミニ絵本を製作する</p> <p>13 子どもの遊び②：保育教材 保育教材について学び、実際に子どもが喜ぶおもちゃ(くるくるペープサート)を製作する</p> <p>14 多文化理解と子育て支援 多文化理解に視点を置いた地域子育て支援の実際</p> <p>15 子どもの成長と多様な経験の重要性 子どもの成長と多様な経験やパースペクティブな考え方</p>
到達目標・基準	◎D：子どもの発達段階を踏まえ、子どもにとって必要な環境や教材について理解することができる。 ○E：子どもの成長にとって必要な教材を使用した保育実践について理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストの該当箇所を読み、保育や子育てに関する新聞やニュース、文献等をまとめておく。(100分) 事後学習：授業時に学習した箇所のテキストや内容を見直し、自分の考えをまとめる。課題が出された場合、課題に取り組む。(100分)
指導方法	対面授業で実施し、子どもの成長を育むために必要な素地を身に付けるために、講義だけではなく、教材製作や映像等を使用しながら実践的に理解できるようにする。

	課題の成果物に対し、個別にフィードバックする。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：レポートの記述内容を評価する。 ○E：製作した教材を評価する。 授業への意欲・態度20%、教材製作40%、レポート40%で評価する。
テキスト	五十嵐淳子編著『国際関係の学びーグローバル社会の子どもの未来を見据えてー』大学図書出版、2021年
参考書	授業の際に紹介する
履修上の注意	ミニ絵本、保育教材の製作では各自必要なものを準備(画用紙、割りばし、はさみ、のり、色ペン、色鉛筆)して、製作することになります。
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：鈴木かの子）			
ナンバリング：G14C20	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業内容) 世界の有名な遺産100件と日本の遺産全25件の中から、テキスト・スライド画像・動画を用いて講義します。古代遺跡やヨーロッパの建築、大自然の絶景や神話的な地域など、世界旅行の気分を味わいながら、世界遺産検定3級合格のためのポイントを学習します。</p> <p>(授業目標) 「社会人に必要な知識や教養」の獲得を目指し、「知的関心」をもって学修する心構え、「異なる考え方や異なる文化を持つ人々」を理解する能力を身に付けます。</p> <p>(学習成果) ◎C：「地球上の多様な価値観」を理解し、環境保全や国際平和の重要性を認識できる。 ◎C：世界の動きに対する関心を高め、批判の目で自分の意見を発表できる。 ◎D：世界遺産検定3級レベル試験で60%以上の得点を取得することができる。</p>		
授業計画	1	イントロダクション なぜ世界遺産を学ぶのか	
	2	世界遺産の基礎知識1 ユネスコと世界遺産条約、世界遺産誕生のきっかけ	
	3	世界遺産の基礎知識2 登録までの流れ、世界遺産の種類と数、危機遺産と負の遺産	
	4	日本の世界遺産1 知床、北海道・北東北の縄文遺跡群、白神山地、平泉、日光の社寺、富岡製糸場と絹産業遺産群、小笠原諸島、ル・コルビジエの建築作品、富士山	
	5	日本の世界遺産2 白川郷・五箇山の合掌造り集落、古都京都の文化財、古都奈良の文化財、法隆寺地域の仏教建造物群、紀伊山地の霊場と参詣道、姫路城、石見銀山遺跡とその文化的景観、厳島神社	
	6	日本の世界遺産3 原爆ドーム、明治日本の産業革命遺産、『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産、屋久島、琉球王国のグスク及び関連遺産群、奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島	
	7	世界の文化遺産1 人類誕生とヨーロッパ古代文明、アジア世界の形成と宗教	
	8	世界の文化遺産2 ヨーロッパ中世、アメリカ、アフリカ、オセアニア	
	9	世界の文化遺産3 近代国家の成立と世界の近代化、危機遺産、時事問題	
	10	世界の自然遺産 世界の自然遺産を知る	
	11	検定直前確認テスト 第56回世界遺産検定に向けた直前の確認テスト	
	12	検定問題の解説 第56回世界遺産検定の3級問題の解説	
	13	世界遺産で取り組む探求(PBL) 開発による影響が懸念される世界遺産や、観光客の数が課題となっている世界遺産	
	14	グループワーク 世界遺産についてのグループワーク	
	15	グループワーク 世界遺産についてのグループワーク	
到達目標・基準	◎C：世界遺産を通して、「地球上の多様な価値観」を理解する。 ◎C：世界の動きに対する関心を深め、批判の目と自分の意見を持てるようになる。 ◎D：世界遺産検定3級レベル試験で80%以上の得点を取得することができる。		
事前・事後学習	事前学習：講義テーマに対する、教科書の該当箇所を事前に読んでおく。(90分) 事後学習：授業後には当日実施した内容を振り返り、知識を深める。(90分)		

指導方法	<p>指導方法： テキストとスライド画像、講義資料（プリント）を用いて、講義を進めます。 内容を理解しやすいよう、世界旅行をしているような気分を味わいながら、授業を進めます。</p> <p>フィードバックの方法： リアクションペーパーを返却の際に総括のコメント、また質疑応答にてフィードバックをします。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>○C：「地球上の多様な価値観」を理解し、環境保全や国際平和の重要性を認識できているかを検定試験、あるいは検定に準じる試験で評価する。 ○C：世界の動きに関する自分の意見を発表し、それを評価する。 ◎D：検定試験直前確認テストの結果を評価する。</p> <p>検定試験、あるいは検定に準じる試験：60% 授業貢献度（自分の意見）：20% 検定試験直前確認テスト：20% ※検定合格で成績評価1ランクアップ（例B評価の場合→A評価に）</p>
テキスト	<p>きほんを学ぶ世界遺産100<第4版> 世界遺産検定3級公式テキスト 世界遺産検定公式過去問題集 3・4級 <2024年度版></p>
参考書	特になし
履修上の注意	世界遺産検定の申込方法は別途、授業で案内します。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
吉田敏行			
ナンバリング：G14C21 1年生	ナンバリング：G14C19 2年生		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業概要) 自分とは異なる考えや価値観を理解し受け入れることが異文化理解です。この授業ではそのきっかけとなるよう、世界の国々の歴史、文化、民族、習慣、宗教、食文化などについて学びます。そして日本と違う点も考えていきます。さらに外国人とのコミュニケーションの助けとなるような簡単なあいさつをさまざまな言語で練習します。</p> <p>(授業目標) ヨーロッパやアジアのさまざまな言語や文化や習慣、その歴史的背景を知り、日本との共通点や相違点、関係性を理解する。</p> <p>(授業成果) ◎A：今までの自分の考えにとらわれず、異文化への関心を持つようになる ○D：各国の歴史文化を学び、それらの国に対する自分自身の印象や日本との相違点を述べるができる E：さまざまな国の言語で簡単なあいさつや自己紹介ができるようになる</p>		
授業計画	第1回	世界の地理、歴史概説 世界の地域ごとの特徴や国々の概説	
	第2回	フランスの言葉と文化 フランス語の簡単なあいさつとフランスの歴史文化を学ぶ	
	第3回	イタリアの言葉と文化 イタリア語の簡単なあいさつとイタリアの歴史文化を学ぶ	
	第4回	スペイン、ポルトガルの言葉と文化 スペイン語、ポルトガル語の簡単なあいさつと歴史文化を学ぶ	
	第5回	ドイツ、オーストリアの言葉と文化 ドイツ語の簡単なあいさつとドイツ、オーストリアなどドイツ語圏の歴史文化を学ぶ	
	第6回	北欧の国々とオランダ、ベルギーの言葉と文化 スカンジナビア半島及びオランダ、ベルギーの歴史文化を学ぶ	
	第7回	スラブ民族の言葉と文化 ロシア語の簡単なあいさつと、スラブ世界の国々の歴史文化を学ぶ	
	第8回	中国の言葉と文化 中国語の簡単なあいさつと歴史文化を学ぶ	
	第9回	朝鮮半島の言葉と文化 韓国語の簡単なあいさつと朝鮮半島の歴史文化を学ぶ	
	第10回	タイの言葉と文化 タイ語の簡単なあいさつと歴史文化を学ぶ	
	第11回	インドシナ半島の言葉と文化 ベトナム語の簡単なあいさつとベトナム、カンボジア、ラオスの歴史文化を学ぶ	
	第12回	インドネシア、マレーシア、シンガポールの言葉と文化 インドネシア語の簡単なあいさつとインドネシアやマレー半島の歴史文化を学ぶ	
	第13回	中南米の国々の歴史と文化 中南米の歴史文化を学ぶ	
	第14回	アフリカの歴史と文化 アフリカの歴史文化を学ぶ	
	第15回	異文化理解(総括) 世界の国々の歴史文化や宗教、風習、料理などをもう一度総復習し、日本文化と比較する	
到達目標・基準	◎A：他者との意見交換を行いながら、新しい知識を得て、自分とは異なる文化や価値観を理解し、積極的に興味を持つようになる ○D：各国の歴史文化や特徴を正しく理解し、グローバル化が進む現代を生きるために役立てることができる E：外国人と接する機会の最初の会話のきっかけとなる簡単なあいさつなどができるようになる		
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う地域や国の基礎知識を事前に得おくため、書籍、雑誌、インターネットの資料を読んだり、世界遺産や旅行の動画を見たりして準備をする。(90分) 事後学習：授業内で配布された資料などをもとに、学んだことを自分なりにまとめておく。(90分)		
指導方法	第一回目の授業で世界のそれぞれの地域の地理、歴史などを概説し、第二回目の授業から各国の詳しい解説を		

	<p>する。 毎回の授業の導入として最初に扱う国の言語でのあいさつを紹介し、そこから文化、歴史へのアプローチをしていく。</p> <p>フィードバックの方法：授業の最後に、学んだ事柄や自分の印象などを各自レポートに書いて提出してもらい、添削とコメントをして次回返却する</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎A：提出してもらったレポートにより他者との関わりあいの中で、どの点にどれくらい理解したか、興味を持ったかを判断する</p> <p>○D：講座で学んだことの総復習として定期試験において評価する</p> <p>E：各言語で学んだことをどの程度理解して覚えているか定期試験において評価する</p> <p>定期試験50%、レポート30%、受講態度20%</p>
テキスト	<p>授業で配布するプリント</p> <p>理解を深めるためにDVDなども使用する</p>
参考書	<p>専門書籍に関しては授業内でも紹介するが、日本及び外国に関するものならばすべて、ガイドブックや写真集なども参考書として読んでもらいたい</p>
履修上の注意	<p>少しでも日本や外国の歴史、文化、言語、料理、世界遺産などに興味がある学生ならば受講してみてください。講義形式の授業ですが、質疑応答や発言を多く求めるので、積極的に授業に参加できる学生が望ましいです。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	<p>ディスカッション、グループワーク、PBL型学習</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
白川はるひ			
ナンバリング：G14C22			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業概要) 日本でみられる女性をめぐる諸課題を切り口に、そこから立ち現れる現代社会の問題や特質、それらの原因や関連性を検討し、その解決策と今を生きる当事者である自分がどのように考え行動していくべきかについて思索し発表する、全15週を通してのPBL型授業である。 (授業目標) ひとりの社会構成者として、社会への問題意識と参画意識、持論をもつこと。 (学習成果) ○A：チーム全員の理解度が高まるように、臨機応変、主体的に意見交換することができる。 ◎D：授業で扱う課題を自分事ととらえて理解し、現状説明、解決策提示、自らとるべき行動などを論理的に説明することができる。 授業で扱う課題同士やその他の社会的課題との関連性について考え、論理的に説明することができる。
授業計画	<p>1 授業ガイダンス、日本社会の抱える課題を概観する（グループワーク） ・ガイダンス（授業内容、授業方法、評価方法に関する説明、諸注意） ・現代日本社会でみられる女性をめぐる課題をひとつを取り出し、現代の特質を考える</p> <p>2 女性と仕事1（グループワーク） ・就職・昇進など、女性の就業に関する現状と課題について、課題文を使用してグループ学習する</p> <p>3 女性と仕事2（ディスカッション） ・女性の就業に関する現状と課題について、ディスカッションと発表、補足説明</p> <p>4 女性と育児1（グループワーク） ・仕事と育児の両立、「孤育て」など、育児に関する現状と課題について、課題文を使用してグループ学習する</p> <p>5 女性と育児2（ディスカッション） ・育児に関する現状と課題についてグループ発表・ディスカッション、補足説明</p> <p>6 女性と貧困1（グループワーク） ・男女の賃金格差など、女性の貧困に関する現状と課題についてグループ学習</p> <p>7 女性と貧困2（ディスカッション） ・女性の貧困に関する現状と課題についてグループ発表・ディスカッション、補足説明</p> <p>8 女性と教育1（グループワーク） ・男女の学歴差など、女子教育・女性教育に関する現状と課題についてグループ学習</p> <p>9 女性と教育2（ディスカッション） ・女子教育・女性教育に関する現状と課題についてグループ発表・ディスカッション、補足説明</p> <p>10 女性と政治1（グループワーク） ・政治家の男女比率の差など、女性と政治に関する現状と課題についてグループ学習</p> <p>11 女性と政治2（ディスカッション） ・女性と政治に関する現状と課題についてグループ発表・ディスカッション、補足説明</p> <p>12 諸課題の関連性を考える1（グループワーク） ・授業で扱ってきた諸課題の関連性を検討する</p> <p>13 諸課題の関連性を考える2（グループワーク） ・授業で扱ってきた諸課題の関連性を検討する</p> <p>14 よりよい社会を目指して（プレゼンテーション） ・日本社会でみられる女性問題に関してひとつテーマを絞り、各自でプレゼンテーションする（現状説明、解決策提示など）</p> <p>15 まとめ（ディスカッション） ・これまで学んだことの総復習とディスカッション</p>
到達目標・基準	○A：決められた自らの役割を遂行しながら授業に参加できる。 ◎D：授業で扱う課題を既習事項や自分の経験とも関連づけながら文章をまとめることができる。 授業で扱う課題同士の関連性についての考えを図示することができる。
事前・事後学習	事前学習： ・毎日のニュースをチェックし、テーマに関係することはメモして授業に臨む（70分）

	<p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要な用語の復習（20分） ・授業内容に関連する資料をさらに調べたり身近な人と意見交換したりしながら自分の考えを深め、指定文字数で自分の意見をまとめる（90分）
指導方法	<p>授業は主に一つのテーマにつき次の流れで学びながら理解を深めていく。①各自での課題文の読み込み・資料調べ・ワークシート作成 ②グループ内でのディスカッション ③全体での発表 ④補足説明 ⑤問いづくり ⑥意見のまとめとシェア。</p> <p>本授業は15週を通してのPBL型授業となるため、最終的には、授業で扱ったテーマのなかから1つを選び、プレゼンテーションにて解決策の提示等を各自が行う。</p> <p>フィードバックの方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション、プレゼンテーションについては、学生同士の相互フィードバックおよび教員からのコメントにて行う。 ・提出物については、クラス全体に対して教室あるいはGoogle Classroom上にて行う。 必要に応じて個々にコメントする。 ・Web上での確認テストは、受験後に正解を提示する。 ・必要に応じてルーブリックを活用しながらフィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>○A：提出物、プレゼンテーション、授業貢献度にて評価する。 ○D：提出物、プレゼンテーション、定期試験にて評価する。</p> <p>定期試験35% 提出物35%、プレゼンテーション25%、授業貢献度5% ※プレゼンテーションは必ず実施すること。</p>
テキスト	なし。適宜プリント教材を配布する。
参考書	<p>松田健『テキスト現代社会学 第4版』ミネルヴァ書房, 2022 本田由紀『現代社会論——社会学で探る私たちの生き方』有斐閣ストゥディア, 2015 岩間暁子ほか『問いからはじめる家族社会学 多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣ストゥディア, 2015 加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣ストゥディア, 2017 小杉礼子・宮本みち子編著『下層化する女性たち 労働と家庭からの排除と貧困』勁草書房, 2015 治部れんげ『「男女格差後進国」の衝撃 無意識のジェンダー・バイアスを克服する』小学館新書, 2020 前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書, 2019 他</p>
履修上の注意	テーマごとの課題文（平均2500字程度の文章の予定）の読み込みに充分取り組んでこそそのディスカッションとなるため、それを心得て履修すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
大澤康太郎			
ナンバリング：G14C23			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 主に人体と健康に関わる化学、生物学を中心に基礎的な事項を学習する。単に知識を覚えるだけでなく、教科書とそれを補足する授業資料を基に自ら調べる活動や、説明を行ったりする活動を学生自身が行うことで、知識を使いこなす訓練をする。 授業資料や課題にはできる限り食物や栄養に関連する具体的事例を用いる。 (授業目標) 授業資料と教科書を使って学び、時に協力しながら、基礎的な科学的概念に対する理解を深め、それを用いて説明をすることができるようになること (学習成果) ◎E：教科書を読解し、さらに不明点はインターネットや書籍を駆使して補足しながら問題を解決できる ○D：科学的な概念を使って説得力のある説明を作り上げることができる
授業計画	<p>1 授業の目標と概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「科学」とは何か ・栄養士過程に必要な知識と学習の方法について ・教科書の読み方・使い方 <p>2 物質と原子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・純物質と混合物 ・物質の構成要素 ・物質の分離方法 ・原子の構造 ・元素周期表の見方 <p>3 分子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子の結合の仕方(イオン結合・共有結合) ・主要なイオン ・分子の構造と物質量 <p>4 単位の読み方と割合の計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接頭辞 ・割合を図示して考える ・計算演習 <p>5 状態変化・溶液</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物質の状態変化(圧力変化も含める) ・溶液の性質 ・溶液の濃度の計算 <p>6 化学反応式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学反応とは ・化学反応式の書き方 ・熱化学方程式と代謝、触媒 <p>7 酸・塩基と中和</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酸、塩基の定義と種類 ・中和とは ・緩衝液 ・身近な酸と塩基 ・酸化と還元 <p>8 有機化学の初歩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機化学とは ・大きな分子を扱う ・動的平衡 <p>9 ここまでの振り返りと問題演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題演習 <p>10 生物学の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物学とはどのような学問か ・栄養士過程に必要な生物学・生化学 <p>11 人体の構造①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の構成レベル ・臓器の一覧とそれぞれの機能 <p>12 人体の構造②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体を構成する「系」

	<p>13 細胞の構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細胞の構成要素 ・細胞の働き <p>14 栄養士に関わる化学・生物学の補足 管理栄養士国家試験の過去問等を使いながら、不足した話題を補足する</p> <p>15 問題演習と振り返り ここまでの知識の総まとめとなるような問題演習を通して、本授業を振り返り今後の学習の指針を共有する</p>
到達目標・基準	<p>◎E：教科書を読解し、問題解決に向けて、必要な情報を収集する方法を学ぶ</p> <p>○D：科学的な概念を用いた言葉で説明できる</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：小テストを行う場合があるため、その準備を行う(60分程度)</p> <p>事後学習：各回の内容を振り返る課題を出す。(120分程度)</p> <p>全体として、事前学習よりも事後学習を重視する。</p>
指導方法	<p>講師からの説明は、指定した教科書に基づいたパワーポイント資料を用いて進行する。適宜YouTube等で公開されている教材を用いて補足を行う。</p> <p>ワークの取り組みを観ながら、必要に応じて、グループあるいは個人に対しフィードバックを行う。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎E：授業内、および事後学習として出す課題への取り組み(提出の程度と回答の精度)を評価する。</p> <p>○D：課題への取り組み、および定期試験の記述問題を評価する。</p> <p>事後課題20%、定期考査30%、授業態度・貢献度50% ただし「授業態度・貢献度」の中に授業内課題への取り組みと正答率を含む。</p>
テキスト	『基礎からのやさしい化学』田島 眞編著 (建帛社)
参考書	授業内で適宜指示する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な元素や臓器の名前など、一部暗記を伴う内容を伴う。小テスト等を行うので、準備すること。 ・授業内では協働学習(学びあい)を実施する場面もある。高校までの学習での理科への得意/苦手意識に関わらず積極的に参加することが望ましい。他者との協働に不安がある学生は、一回目の授業時に相談用のアドレスを開示するので、講師に相談すること。 ・本授業は内容に栄養士課程に必要な内容を盛り込むつもりだが、「管理栄養士国家試験対策」ではない。資格取得に向けては、この授業以外の授業を受講することや自習が必須になる。 ・学生の習熟度等を見ながら、内容を増減することがありうる。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、一部PBL型の課題設定

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	総合：選択
担当教員			
大澤康太郎			
ナンバリング：G14C24			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業概要) 環境問題は文系・理系の垣根を超えた幅広い問題意識に関わる。本授業では、地質学などの自然科学的な話題から環境に対応する市民活動などの社会的な話題までを横断的に扱い、近年企業や行政も喫緊の取り組みを求められている「環境問題」とその対策の全体像をつかむことを目指す。 (授業目標) 地球環境というさまざまな分野がかかわる、また正答が一つに定まりづらい問題について学習することを通して、現代社会を生きていくためのリテラシーと資質を涵養する。 (学習成果) ◎C：環境の知識を活用し、環境問題の本質を理解することができる。 ○D：環境問題の解決を指向する方法を考えることができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 環境学という文理の混在する対象について、学び方を考える。</p> <p>2 「循環」を通して地球を考える 循環という視点で地球環境について理解する。</p> <p>3 生命が居住可能な惑星とは？ 星や太陽系の惑星の知識を修得し、生命が存在するのに必要な条件を考える。(グループワーク)</p> <p>4 地球の歴史と探り方 地質学の方法論を用いて地球46億年の歴史を辿る。</p> <p>5 気候変動 地球が抱える環境問題の結果として引き起こされている「気候変動」について理解する。</p> <p>6 生物多様性の喪失 生物多様性の喪失とその影響、人間社会の対応について理解する。</p> <p>7 SDGs 地球上の様々な問題に対応するべく制定されているSDGsに関する理解を深める。</p> <p>8 エネルギー問題 再生可能エネルギーを中心に、エネルギーと環境の関係性を理解する。(グループワーク)</p> <p>9 プラスチックごみの問題 プラスチックごみがもたらしている環境への影響について理解する。</p> <p>10 芝公園の環境について調べる(フィールドワーク) 芝公園に出かけ、環境について考える。</p> <p>11 レジリエントな社会 「レジリエント」をキーワードに、環境問題に対応する方法について考える。(グループワーク)</p> <p>12 環境にかかわる法律 環境にかかわる法律についての知識を得る。</p> <p>13 環境に対する市民の活動① 事例紹介を基に、環境問題に対応する市民活動について知る。</p> <p>14 環境に対する市民の活動② 事例紹介を基に、環境問題に対応する市民活動について知る。(グループワーク)</p> <p>15 地球レベルと個々の生活 授業全体のまとめを行う。</p>
到達目標・基準	◎C：身のまわりの環境を理解することができる。 ○D：身近な環境問題について考えることができる。
事前・事後学習	事前学習：プリントを読み関連のある箇所を読む(90分程度) 事後学習：配布されたプリントを復習し、演習問題を再度解く(90分程度)
指導方法	配布するプリントや、パワーポイント等を使用して講義を進める。 また、適宜グループワークを行う。 フィードバックの仕方：プリント返却時に指導する。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：環境の問題について定期試験で評価する。 ○D：環境について定期試験で評価する。 定期試験50%、課題への取り組み30%、受講態度20%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	授業内容は受講生の興味や教材、時事的話題によって変更することがある。 また、天候により一部の授業の順番を入れ替えることもある。
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL型授業、グループ発表、フィールドワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
澁木祥子			
ナンバリング：G15C25			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 球技種目（バドミントン、ソフトバレーボール、卓球、ニュースポーツ）の基礎技術を取得し、ゲームを行う。 (授業目標) 運動を通して、日常生活に必要な基礎体力をつける習慣を身につけるために、ストレッチとエクササイズを継続して実施し、自身の体調の変化に気がつくようにする。ゲームを通して、他者と協働することの意義や楽しさを体得できるようにする。 (学習成果) ◎A：ゲーム実施の際、自身の役割を理解し、チームに貢献することで責任感を養うことができる。 ◎E：球技種目（バドミントン、ソフトバレーボール、卓球、ニュースポーツ）の基礎技術を修得することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス（グループワーク：自己紹介） 目的、授業における留意点、評価方法の説明、自己紹介</p> <p>2 球技①基礎（実習：ドッジボール） ストレッチ、ドッジボール（基礎練習）</p> <p>3 ニュースポーツ①基礎（実習：ドッジビー） ストレッチ、バドミントン（基礎練習）</p> <p>4 球技②基礎（実習：バドミントン1） ストレッチ、バドミントン（基礎練習）</p> <p>5 球技②応用（実習：バドミントン2） ストレッチ、バドミントン（ゲーム）</p> <p>6 球技③基礎（実習：ソフトバレー1） ストレッチ、ソフトバレーボール（基礎練習）</p> <p>7 球技③応用（実習：ソフトバレー2） ストレッチ、ソフトバレーボール（ゲーム）</p> <p>8 ニュースポーツ②（実習：インディアカ1） ストレッチ、インディアカ（基礎練習）</p> <p>9 ニュースポーツ②応用（実習：インディアカ2） ストレッチ、インディアカ（ゲーム）</p> <p>10 ニュースポーツ③基礎（実習：ユニホック） ストレッチ、ユニホック（基礎練習、ゲーム）</p> <p>11 球技④基礎（実習：ポートボール） ストレッチ、ポートボール（基礎練習、ゲーム）</p> <p>12 球技⑤基礎（実習：卓球1） ストレッチ、卓球（基礎）</p> <p>13 球技⑤応用（実習：卓球2） ストレッチ、卓球（ゲーム）</p> <p>14 ニュースポーツ④基礎（実習：ボッチャ） ストレッチ、ボッチャ（基礎練習、ゲーム）</p> <p>15 ニュースポーツ⑤基礎（実習：キンボール） ストレッチ、キンボール（基礎練習、ゲーム）</p>
到達目標・基準	◎A：チーム内においての自身の役割を見つけ参加することができる。 ◎E：ルールにのっとり、楽しくスポーツすることができる。
事前・事後学習	事前学習：次週の授業までに日常生活の中でスポーツに関するニュースや書籍に目を通すようにする。（30分程度） 事後学習：スポーツする楽しさと意義を感じ、日常生活の中にスポーツすることを取り込んでいくようにする。（30分程度）
指導方法	実技演習 ①準備運動としてストレッチやエクササイズを行い、その日の体調を確認する。

	<p>②各々のスポーツ種目の基礎技術を練習し修得する。</p> <p>③ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ゲームを楽しむ中で、スポーツを楽しむためには何が必要かを考えさせる。</p> <p>フィードバックの仕方：実技と技能カードやGoogleフォームでの感想を総合的に評価し、授業時に返却する。質問があった場合には、個別に対応する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎A：ゲーム中においてチームにおける貢献度と受講態度、また技能カードやGoogleフォームでの提出物に対する取り組みを評価する。</p> <p>○E：各種目における技能を評価する。</p> <p>チームへの貢献度30%、受講態度30%、提出物10%、各種目における技能30%</p>
テキスト	<p>なし</p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p>
参考書	<p>「YOGAポーズ解剖図鑑」成美堂出版</p> <p>「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社</p> <p>「スタビライゼーション」小林敬和編著 ベースボールマガジン社</p>
履修上の注意	<p>①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。</p> <p>②体育館シューズ・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等は外すこと。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	<p>グループワーク、実習</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
澁木祥子			
ナンバリング：G15C26			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 準備運動としてストレッチを実施する中で、心身をほぐす。リズムダンスの基礎的なステップを修得後、リズムに合わせて踊れるよう練習を実施する。 (授業目標) 修得した曲目の中から自身の課題曲を決定し、グループでフォーメーションの創作を実施し、人前で発表できるようにする。 (学習成果) ◎A：修得した曲の中からグループ創作を実施し、チームをまとめる力を身につけることができる。 ○E：準備運動としてストレッチを行い、リズムダンスの基礎的なステップを修得することで個人の身体表現を磨き、リズムに乗って楽しく踊ることができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス（グループワーク：自己紹介） 目的、授業における留意点、評価方法の説明、自己紹介紹介</p> <p>2 ストレッチ、ウォームアップ ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(ウォームアップ)</p> <p>3 リズムダンス①（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ1)</p> <p>4 リズムダンス②（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ2)</p> <p>5 リズムダンス③（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・仕上げ)</p> <p>6 リズムダンス④（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ1)</p> <p>7 リズムダンス⑤（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ2)</p> <p>8 リズムダンス⑥（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・仕上げ)</p> <p>9 リズムダンス⑦（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ1)</p> <p>10 リズムダンス⑧（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ2)</p> <p>11 リズムダンス⑨（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・仕上げ)</p> <p>12 グループ創作1（グループワーク） ストレッチ、グループ創作（構成作り）（ICT：iPad）</p> <p>13 グループ創作2（グループワーク） ストレッチ、グループ創作（振り作り）（ICT：iPad）</p> <p>14 グループ創作3（グループワーク） ストレッチ、グループ創作（踊り込み）（ICT：iPad）</p> <p>15 創作ダンス発表 グループ創作した作品発表（ICT：iPad）</p>
到達目標・基準	◎A：自身にあった課題曲を自分で選択し、創作活動に参加することができる。 ○E：軽いエクササイズやストレッチ、リズムダンスに苦手意識を持たずに楽しみ参加することができる。
事前・事後学習	事前学習：自分自身の身体の変化に気がつけるようにチェックを行う。（30分程度） 事後学習：毎回導入として行うストレッチやマッサージの方法を覚え、日常生活でも実践していくようにする。（30分程度）
指導方法	戸板ホールで実習・Googleフォーム提出 ①準備運動としてストレッチを行い、その日の体調を確認する。 ②ウォームアップを音楽に合わせて行い、リズムに合わせて動くたのしさを修得し、健康でしなやかな日常生活

	<p>活を送れるようにする。</p> <p>③リズムダンスを修得した後、グループ創作を行う。個人の身体表現を磨き、他者との身体コミュニケーションを行う意義について理解を深めさせる。</p> <p>フィードバックの方法：iPadで動きや作品を撮影し、その動画を用いて改善していく。質問があった場合には、個別に対応する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎A：グループ活動時の貢献度と受講態度、またGoogleフォームなど提出物に対する取り組みを評価する。</p> <p>○E：個人技能を評価する。</p> <p>グループへの貢献度30%、受講態度20%、提出物20%、個人技能30%</p>
テキスト	<p>なし</p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p>
参考書	<p>「YOGAポーズ解剖図鑑」成美堂出版</p> <p>「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社</p> <p>「プロフェッショナルピラーティス」アラン・ハードマン著 池田美紀訳 ガイアブックス</p> <p>「ダンス解剖学」ジャッキ・グリーン・ハース著 武田淳也監訳 ベースボール・マガジン社</p>
履修上の注意	<p>①受講資格：健康診断(心電図も含む)において問題がないと認められた者。</p> <p>②体育館シューズ・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等は外すこと。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	<p>グループワーク：実習、創作</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
澁木祥子			
ナンバリング：G15C27			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 準備運動としてストレッチを実施する中で、心身をほぐす。様々なスポーツ種目の基礎技術を修得し、ゲームを実施する。ダンスにおいては、基礎的なステップを修得し、リズムに合わせて踊れるよう練習を実施する。 実施期間：5日間（土曜日） 実習場所：八王子キャンパス (授業目標) ゲームやダンスを通して、自身にあった生涯スポーツやダンスを発見し、楽しみながら健康・体力の維持・増進を図ることを目標とする。 (学習成果) ◎E：自身にあった運動を見つけ、参加することができる。 ◎B：修得した基礎技術を使用して、ゲームやダンスができる。
授業計画	<p>1 体づくり運動（実習：体ほぐし・ストレッチ） 体ほぐし、ストレッチ、ドッジビー</p> <p>2 ニュースポーツ①基礎（実習：グランドゴルフ） グランドゴルフ（基礎練習）</p> <p>3 ニュースポーツ①応用（実習：グランドゴルフ） グランドゴルフ（ゲーム）</p> <p>4 体づくり運動（実習：エクササイズ・エアロビクスダンス） ストレッチ、エクササイズ、エアロビクスダンス</p> <p>5 ニュースポーツ②基礎（実習：インディアカ） シッティングバレーボール、インディアカ（基礎練習）</p> <p>6 ニュースポーツ②応用（実習：インディアカ） インディアカ（ゲーム）</p> <p>7 体づくり運動（実習：体ほぐし・エアロビクスダンス） 体ほぐし、ストレッチ、エアロビクスダンス</p> <p>8 ダンス（実習：リズムダンス） ダンス（ステップ練習、フレーズ練習）</p> <p>9 球技①基礎・応用（実習：ポートボール） ポートボール（基礎練習、ゲーム）</p> <p>10 体づくり運動（実習：体ほぐし・ストレッチ） 体ほぐし、ストレッチ、ドッジビー</p> <p>11 ラケット種目①基礎（実習：卓球） 卓球（基礎練習）</p> <p>12 ラケット種目①応用（実習：卓球） 卓球（ゲーム）</p> <p>13 体づくり運動（実習：ストレッチ・エクササイズ） ストレッチ、エクササイズ</p> <p>14 ニュースポーツ基礎③（実習：キンボール） キンボール（基礎練習）</p> <p>15 ニュースポーツ③応用（実習：キンボール） キンボール（ゲーム）</p>
到達目標・基準	◎E：健康・体力の維持・増進を図る姿勢を身に付けることができる。 ◎B：各種スポーツ、ダンスの基礎技術を修得できる。
事前・事後学習	事前学習：今後の自身の生活に活かせるように「生涯スポーツ」について調べておく。（30分程度） 事後学習：授業内で実施したスポーツ種目と、自身の日常生活との関わり方について考える。（30分程度）
指導方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 準備運動として、ストレッチやエクササイズ（エアロビクスダンス）を行い、その日の体調を確認する。 2) 各々のスポーツ種目やダンスの基礎技術を練習し、修得する。 3) ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ダンスの場合は、リズムに合わせて踊れるよう練習する。 4) 生涯にわたって楽しく続けられるスポーツ技術、運動能力を身に付けるにはどのような工夫が必要か考える。

	させ、それらをゲーム（ダンス）のルールに適用させて、ゲーム（ダンス）を行う。 フィードバックの方法：実技や技能カード等を総合的に評価し、授業時に返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：積極的にスポーツ・ダンスを実施しているか、チームにおける貢献度と受講態度、また技能カード等の提出物に対する取り組みを評価する。 ○B：各種目における技能を評価する。 チームへの貢献度30%、受講態度30%、提出物10%、各種目における技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	特になし
履修上の注意	①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。 ②運動靴・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等ははずすこと。 ③事前に指定されたオリエンテーションに必ず参加すること。 ④実習期間：5日間（土曜日）実習場所：八王子キャンパス
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
中村公子（契約講師：ELEC）、玉川明日美			
ナンバリング：G16A28			
添付ファイル			

<p>授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力</p>	<p>(授業概要) 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Listening/Speakingをネイティブ講師から、Reading/Writingを日本人講師から学ぶ。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズをロールプレイなどさまざまなアクティビティを通して身につける。双方の内容を通して、英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。</p> <p>(授業目標) 多角的なアプローチにより、バランスの取れた4技能のスキルアップを図るとともに、グローバルな視点を身につける。</p> <p>(学習成果) (Reading and Writing Class) ○E：英語特有の発想や表現パターンを理解し、それらを用いて自らの意見を表現することができる。 (Listening and Speaking Class) ◎B：Understand and use vocabulary related to their specialized area of study (Fashion and Design), and compose well-organized and logical presentations using the vocabulary and presentation techniques covered in class. (専攻の学修内容(服飾)に関連した語彙を理解し、使うことができる。既習の語句やプレゼンテーション・スキルを応用して、わかりやすいプレゼンテーションを組み立てて発表することができる) (共通) D：グローバル基準の価値観に対する理解を深めることができる。</p>
<p>授業計画</p>	<p>1 Course Orientation, Basic English Review Reading and Writing(RW): Course orientation / Unit 1 Why Do We Wear Clothes? Listening and Speaking(LS): Course introduction and orientation / Classroom language / Project Introduction</p> <p>2,3 RW: Unit 1 Why Do We Wear Clothes? Clothes for important days / Clothes for every day / Looking good</p> <p>2,3 LS: General English & ESP Project Based Learning (PBL) Lesson 1: Project Brainstorming and Signposting Language グループで、リサーチ・トピックとターゲットとなるファッション・スタイルを決める。適切なStyle Modification (スタイルの現代化) とは何か、考え、まとめる。わかりやすいプレゼンに活用できる語句 (signposting language) を学ぶ。</p> <p>4,5 RW: Unit 2 The History of Clothes Making clothes / Making fabrics</p> <p>4,5 LS: General English & ESP ESP Lesson 1, 2: Product Promotion and Marketing, Fashion Displays アパレル商品の説明、プロモーション、マーケティングに使われる基本語彙を学ぶ。店舗のディスプレイを説明するための語彙を学び、練習する。</p> <p>6,7 RW: Unit 2 The History of Clothes, Fabrics, Unit 5 Fabrics Silk / Cotton / Wool / Synthetic Fabrics (グループ内発表)</p> <p>6,7 LS: General English & ESP ESP Lesson 3, 4: Garments and Colors, Garment Creation. Quiz 1. 服の色、スタイル、付属の装飾品、作り方に関する語彙を学び、アパレル商品を説明する時にどう応用できるか練習する。小テスト① (語彙)。</p> <p>8,9 RW: Unit 5 Unit 3 The Language of Clothes Traditional costume (Writing Project)</p> <p>8,9 LS: General English & ESP ESP Lesson 5, 6: Fabric Types, Fabric Patterns. Quiz 2. 生地の種類や代表的な模様を説明する語彙を学び、それらが使われた服や装飾品を説明する練習をする。小テスト② (語彙)。</p> <p>10,11 RW: Unit 3 The Language of Clothes, Unit 6 The Clothing Industry Designers, Buyers, Factory workers, Sales clerks</p> <p>10,11 LS: General English & ESP PBL Lesson 3, 4: Body Language and Gestures, Visual Aids. Quiz 3. General English & ESP プレゼンテーション発表スキル (適切なジェスチャーの使い方、視覚資料の作り方) を学修し、スクリプト等、自分のプレゼンテーションを作る。小テスト③ (語彙)。</p> <p>12,13 RW: Unit 6 The Clothing Industry The supply chain</p> <p>12,13 LS: Role-Play Preparation & ESP</p>

	<p>PBL Lesson 5, 6: Presentation Final Practice Role-Play Preparation & ESP スクリプトを使わないプレゼンテーションの発表練習をする。プレゼンテーションの内容、発表方法、視覚資料、ジェスチャーについて、フィードバックを受け、修正する。</p> <p>14, 15 RW : Unit 8 Crazy Clothes Fashions shows, Fashion victims, Street fashion</p> <p>14, 15 LS : Role-Play Presentations PBL Lesson 7, 8: Final Presentations 最終プレゼンテーションの発表を行い、フィードバックを受ける。前期の学修の自己振り返りを行う。</p>
到達目標・基準	<p>(RW) ○E : スキミングやスキヤニングなどのリーディング技法を用いて、英文の主旨を正確に掴むことができる。 D : 語彙力を増やし、さまざまな表現を用いて、自らの考えを英語で伝えることができる。</p> <p>(LS) ◎B : Use a variety of grammar structures in spoken English D : Understand and use vocabulary related to their particular area of study</p>
事前・事後学習	<p>事前学習 (RW) 小テストに備え前週の既習内容についての振り返りを行う。発表等の準備を進める。(約30分) (LS) Both homework and preview work are compulsory. Towards the end of the semester, students are expected to continue work on their presentations out of class. They will be expected to prepare for their presentations (e.g. writing and editing their scripts, practice presenting without their scripts etc.). (約30分) (事前・事後両方の学修が必須。プレゼンテーションに必要なすべてにこの項目の準備を進めて学期末の発表に備える。)</p> <p>事後学習 (RW) 授業時に課されたワークや課題に取り組む。(約30分) (LS) Homework will be a review of target language studied in class. Students are encouraged to maintain vocabulary notebooks to aid language retention and serve as review resources. (約30分) (既習語彙の復習を行う)</p>
指導方法	<p>2週目よりRWとLSを1週交代に行う。</p> <p>(RW) リーディングスキル(主旨の把握、文章構成の理解など)の育成を目標に、各種ワークやアクティビティ・関連動画などを取り入れ楽しみながら英文を読むことができるよう指導する。また、毎時の課題としてリサーチまたは英作文を課し、英語での表現力を養う。 フィードバックの方法: 課題及び小テストを実施し、授業内で解説または添削のうえ返却する。</p> <p>(LS) The course consists of an introduction class, six project lessons, six ESP lessons, and two assessed presentation and feedback lessons. Students will learn new vocabulary related to their major and then expected to apply the acquired knowledge in their presentation (project). Vocabulary quizzes will be administered to assess language retention and encourage language review. (一般英会話・学科の学びに繋がる専門英語・ロールプレイプレゼンテーションで授業を構成する。適宜単語テストを行う。)</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>(RW) ○E : 定期試験や各ユニットの課題、発表等で評価する。 D : 授業への取り組みや、小テスト等で評価する。 小テスト 10% 課題・提出物・貢献度 40% 定期試験 50%</p> <p>(LS) ◎B・D : Speaking ability is measured through the presentations, and their listening ability is assessed via a listening test in week sixteen (outside of the fifteen-week semester). (スピーキング力は各種発表から、リスニング力は定期試験テストから評価する) Presentation Performance (発表) 40% Listening Test (リスニングテスト) 25% Vocabulary Quizzes (単語テスト) 15% Classroom Performance and Participation (授業態度と貢献度) 20%</p> <p>*最終的な評価は、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものから算出する。</p>
テキスト	<p>(RW) Clothes Then and Now, Richard Northcott (2018), Oxford University Press (LS) なし。適宜プリント等を配布する。</p>
参考書	<p>授業の際に指示する</p>
履修上の注意	<p>グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。 小テストはPCまたはスマートフォンで行うため、毎回必ず持参すること。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	<p>プレゼンテーション ディスカッション グループワーク プレゼンテーション PBL</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
中村公子、Todd William、石田毅			
ナンバリング：G16A29			
添付ファイル			

<p>授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力</p>	<p>(授業概要) 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Listening/Speakingをネイティブ講師から、Reading/Writingを日本人講師から学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズをロールプレイなどさまざまなアクティビティを通して身につける。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。双方の内容すべてを通して、英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。</p> <p>(授業目標) 多角的なアプローチにより、バランスの取れた4技能のスキルアップを図る。グローバルな視点を身につける。</p> <p>(授業成果) (Reading and Writing Class) ○E：さまざまな国の観点から書かれた文章を読み、英語特有の発想や表現パターンを身につける (Listening and Speaking Class) ◎B：Communicate in a variety of everyday situations and discuss a range of topics (日常のさまざまな場面における幅広いトピックに英語で応対できる力を身につける)</p> <p>(共通) D：グローバル基準の価値観に対する理解を深めることができる。</p>
<p>授業計画</p>	<p>1 Course Orientation Reading and Writing(RW): Course orientation / Unit 1 Unit 1 Food for life: About Nutrition Listening and Speaking(LS): Course introduction and orientation / Ice-breaker activities</p> <p>2, 3 RW: Unit 1 Food for life Five Major Nutrients</p> <p>2, 3 LS: General English & ESP General English: Discuss Personal Skills and Abilities ESP: Food; Food Groups</p> <p>4, 5 RW: Unit 1 Food for life / Digestion Nutrients, Digestive system and organs</p> <p>4, 5 LS: General English & ESP General English: Introducing and Asking about Family Members ESP: Food Preparation</p> <p>6, 7 RW: Digestion Digestive system and diseases</p> <p>6, 7 LS: General English & ESP General English: Describing personalities ESP: Weights and Measures</p> <p>8, 9 RW: Unit 3 Food origins Origins of chocolate and potato chips</p> <p>8, 9 LS: General English & ESP General English: Describing appearance ESP: Essential Macronutrients and their Sources</p> <p>10, 11 RW: Unit 4 Typical Dishes Traditional food around the world</p> <p>10, 11 LS: General English & ESP General English: Talking about the Past ESP: Essential Micronutrients and their Sources</p> <p>12, 13 RW: Unit 4-7 & Group Presentation Research and presentation about typical food in the world</p> <p>12, 13 LS: Role-Play Preparation & ESP Role-Play Preparation ESP: Food Labels</p> <p>14, 15 RW: Unit 8 Giving thanks Food and events, Writing Project</p> <p>14, 15 LS: Role-Play Presentations Role-Play Presentations & Course Wrap-up</p>

到達目標・基準	<p>○E：英文の内容を正しく理解できる。英語らしい表現で自らの考えを表すことができる。 ◎B：場面に適したコミュニケーションを適切な英語を用いて行うことができる。 D：自らの専攻分野で必要となる英語を身につけ、文化的な背景に即して正しく使うことができる。</p> <p>(RW) E：スキミングやスキヤニングなどのリーディング技法を用いて、英文の主旨を正確に掴むことができる。 D：語彙力を増やし、さまざまな表現を用いて、自らの考えを英語で伝えることができる。</p> <p>(LS) B：Use a variety of grammar structures in spoken English D：Understand and use vocabulary related to their particular area of study</p>
事前・事後学習	<p>事前学習 (RW) 小テストに備え前週の既習事項に関する振り返りを行う。発表等の準備を進める。(約30分) (LS) Both homework and preview work are compulsory. Towards the end of the semester, students are expected to continue work on their presentations out of class. They will be expected to prepare for their presentations (e.g. writing and editing their scripts, practice performing their scripts etc.). (約30分) (事前・事後両方の学習が必須。プレゼンテーションに必要なすべての項目の準備を進めて学期末の発表に備える。)</p> <p>事後学習 (RW) 授業時に課されたワークや課題に取り組む。(約30分) (LS) Homework will be a review of target language studied in class. (約30分) (既習語彙の復習を行う。)</p>
指導方法	<p>2週目よりRWとLSを1週交代に行う。</p> <p>(RW) リーディングスキル(主旨の把握、文章構成の理解など)の育成を目標に、各種ワークやアクティビティ・関連動画などを取り入れ楽しみながら英文を読むことができるよう指導する。また、毎時の課題としてリサーチまたは英作文を課し、英語での表現力を養う。 フィードバックの方法：課題及び小テストの実施と、授業内での解説とコメントまたは添削物の返却</p> <p>(LS) The course consists of an introduction class, six ESP lessons, three role-play presentation classes, and five general English lessons. The semester begins with a focus on general English skills, and ends with role-play presentations. The rest of the course alternates between general English and ESP material appropriate to the students' major. Vocabulary quizzes will be administered to assess language retention and encourage language review. (一般英会話・学科の学びに繋がる専門英語・ロールプレイプレゼンテーションで授業を構成する。適宜単語テストを行う。それぞれの課題に対し適宜フィードバックを行う。)</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>(RW) ○E：定期テストや課題、発表等で評価する。 D：小テストや課題内容で評価する。</p> <p>小テスト 10% 課題・提出物・貢献度 40% 定期試験 50%</p> <p>(LS) ◎B・D：Speaking ability is measured through role-play presentations, and their listening ability is assessed via a listening test in week sixteen (outside of the fifteen-week semester). (スピーキング力はロールプレイの発表から、リスニング力は定期試験テストから評価する)</p> <p>Role-Play Presentation (ロールプレイ発表) 35% Listening Test (リスニングテスト) 25% Vocabulary Quizzes (単語テスト) 20% Participation (貢献度) 20%</p> <p>*最終的な評価は、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものから算出する。</p>
テキスト	<p>(RW) Food Around the World, Robert Quinn(2010), Oxford University Press (LS) なし。適宜プリント等を配布する。</p>
参考書	<p>授業の際に指示する</p>
履修上の注意	<p>グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。小テストはPCまたはスマートフォンで行うため、毎回必ず持参すること。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	<p>ディスカッション グループワーク ロールプレイプレゼンテーション</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子			
ナンバリング：G16C30			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業概要) 英語4技能（読む・書く・聞く・話す）のすべての基本となる文法を基礎から学びなおし、相手に正しく伝えられる英文を表現できるよう、理解と演習を繰り返す。また、TOEICや英検等で問われる知識から学習をすすめ、得点アップにつなげる。 (授業目標) 自らの将来とそれに必要な英語力を知り、目標設定をする。その達成向け実現可能な計画を立てて実行する。 (授業成果) ◎C：自らの目標とした英語力獲得に向けて計画的に学習を進めることができる。 ○D：言葉の規則を理解し、適切に使用できるようになる。
授業計画	1 形容詞と副詞 形容詞と副詞の区別、使い分け 2 形容詞と副詞 品詞による形の違いと語順(1) 3 形容詞と副詞 語順(2) 4 現在分詞と過去分詞 変化と使い方 5 動詞 知覚動詞・使役動詞 6 動詞 文型 7 動詞 時制 8 名詞・代名詞 可算名詞・不可算名詞、単数・複数 9 名詞・代名詞 再帰代名詞 10 接続詞 接続詞と時制 11 接続詞 様々な接続詞 12 接続詞と前置詞 接続詞と前置詞の見分け、使い方 13 関係詞 主格・所有格・目的格 14 関係詞 省略、関係副詞 15 関係詞 継続用法と制限用法
到達目標・基準	◎C：検定等のスコア達成目標を決め、そこに向かって計画を立案、達成に向けて努力する。 ○D：品詞や時制などの重要文法事項の定着をはかる。
事前・事後学習	事前学習 あらかじめテキストの解説ページを読み、基礎知識を入れたうえで授業に臨むよう準備する。小テストに備え前週の既習内容についての振り返りを行う。(約30分) 事後学習 授業時に課されたワークや課題に取り組み、内容の定着を図る。(約60分) 授業内容に関する確認小テストを当日中に実施する(10分)

指導方法	解説は最低限にとどめ、演習を重視する。授業だけにとどまらず、課題としても問題演習を課す。より多くの問題を解くことで知識の定着を図る。 フィードバックの方法：課題及び小テストの実施と、授業内での解説、コメントまたは添削物の返却。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：小テストや課題の達成度、発表等で評価する。 ○D：ワークや課題の成果で評価する。 小テスト 10% 課題・提出物・貢献度 40% 定期試験 50%
テキスト	マーフィーのケンブリッジ英文法 中級編 第4版(2017) Raymond Murphy著 Cambridge University Press
参考書	適宜授業の際に指示する
履修上の注意	全ての英語の基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。 毎回辞書を用意すること。 小テストはPCまたはスマートフォンで行うため、シラバスに記載のある回には必ず持参すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：G16C31			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 道案内やお土産の提案など、外国人観光客とのコミュニケーションにおいて求められる英語を学びます。会話表現や文法に加え、日本文化を説明するための語彙や表現も学び、ロールプレイ等を通して実際に練習します。 (授業目標) この授業は、お客様とのコミュニケーションに必要な英語を習得する機会を提供します。具体的には、ホテルなどに到着された瞬間から、チェックアウト手続きを完了し、お別れの挨拶をするまでに至るまで、幅広いシチュエーションで利用される英語表現を学ぶことができます。 (学習成果) ◎E：外国人観光客とコミュニケーションを取り、もてなすことができる。 ◎E：外国人観光客の要望を正しく理解し、アクティビティの提案や的確な補助ができる。 ○D：基本的な日常英会話表現を理解し、使用できる。 ○D：日本の文化やエチケット、習慣を正しく理解し、英語で説明できる。		
授業計画	1	Orientation and Introduction Orientation to course and students' self-introductions	
	2	Welcoming guests. Welcoming a guest with no reservation. Checking in guests I Finding out what guests need I Giving guests information Checking in guests I Handling a difficult situation I Saying No politely	
	3	'Difficult' guests. Looking after guests (1). Explaining things I Finding solutions to problems I Making suggestions Offering to help I Giving simple directions I Explaining things	
	4	Looking after guests (2). Reservation inquiries. Organizing transport I Giving information to guests I Agreeing to do something Handling reservation inquiries I Taking reservations I Taking credit card details	
	5	Reservation changes. Phone calls to reception. Changing reservations I Cancelling reservations I Confirming cancellations Transferring calls within the hotel I Dealing with guests' problems	
	6	Communication problems. Guest problems. Dealing with a bad phone line I Confirming details I Making information clear Handling guest complaints I Solving problems I Moving guests to a new room	
	7	At breakfast. At the bar Saying where things are I Offering food and drink I Taking breakfast orders Taking orders at the bar I Recommending something I Taking payment	
	8	Complaints from guests at the bar. In the restaurant (1). Dealing with complaints I Apologizing for mistakes I Explaining the bill Welcoming diners I Giving out menus I Taking drinks orders	
	9	In the restaurant (2). In the restaurant (3) Taking food orders I Explaining dishes I Choosing drinks Asking about dessert and coffee I Bringing the bill I Handling payment	
	10	Housekeeping. Housekeeping problems Briefing new staff I Explaining hotel rules I Answering questions Dealing with requests I Solving problems I Agreeing to come back later	
	11	Room service. Guest services. Taking room service orders I Agreeing delivery times I Delivering room service Ordering things for guests I Making appointments I Checking information	
	12	In the business centre. Recommendations for places to eat. Explaining available services I Providing equipment I Providing information Making restaurant recommendations I Comparing things	
	13	Checking out. Problems checking out. Checking guests out I Checking items on the bill I Saying goodbye Correcting mistakes on the bill I Apologizing I Keeping guests happy	
	14	Speaking Tests 1 Students prepare and perform speaking tests with instructor.	
	15	Speaking Tests 2 Students prepare and perform speaking tests with instructor.	
到達目標・基準	◎E：外国人観光客と基本的なコミュニケーションを取り、もてなすことができる。		

	<p>◎E：外国人観光客の要望を理解し、適切な補助ができる。 ◎D：基本的な日常英会話表現を理解し、使用できる。 ○D：日本の文化やエチケット、習慣を理解し、英語で説明できる。</p>
事前・事後学習	<p>(事前学習) 次課の教材を読みわからない語彙の意味を調べる (15分)、ロールプレイの準備 (15分) Read the materials for the next lesson and look up any unknown words (15 minutes). Prepare for the assessed roleplays. (15 minutes)</p> <p>(事後学習) 授業内で扱った重要語句や文法事項の復習 (30分) Review target language studied in class. (30 minutes)</p>
指導方法	<p>この科目は、観光テーマ (道案内、公共交通機関、街中での会話、飲食店、トラブルシューティング) を扱っています。</p> <p>5回目、10回目、15回目授業内でロールプレイを実施します。授業内で扱ったトピックをもとにロールプレイを作成・発表し、原稿と発表のパフォーマンスを評価します。</p> <p>This course gives you the English you need to talk to guests - from the moment they arrive at your hotel until the time they check out and you say goodbye. The 24 units focus on face-to-face communication with guests, plus telephoning and writing emails. Each unit begins with a conversation for you to listen to and read. The conversation presents the key language. Then there are activities for you to practise the key language including speaking exercises.</p> <p>[Role-plays] Students will be assessed every five lessons through role-plays. They may choose a topic from the material covered in class, and are assessed for both role-play script-writing and enactment.</p> <p>フィードバックの方法：ロールプレイ実施の際、発表および原稿に対し口頭・紙面にてフィードバックを行います。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎E：ロールプレイの発表および原稿で評価する。 ◎D：テストで評価する。</p> <p>Participation 20% Role-play presentations 30% Role-play writing 10% Speaking Test 40%</p>
テキスト	Hotel and Hospitality English (Collins English for Work). Mike Seymour. Collins, 2012. 978-0007431984
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク (毎回) ロールプレイプレゼンテーション (5, 10, 15週)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：東祥子）			
ナンバリング：G16C32（1年生）	ナンバリング：G19C35（2年生）	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	（授業内容） 基礎フランス語を学ぶ。語学と同時に文化・国民性にも触れて、フランス語は勉強ではなく文化の一部であり、生きている・使うものという事を念頭において楽しく学ぶ。常に「参加型」の授業で、講義ではなく、「話そう、聞き取ろう、答えよう」という形式で、簡単な会話の授業を行う。教室に入ったら、フランスの世界！を実感。旅行、日本における国際機関、ホテル業、観光業、飲食業（調理場）で実際役立つやり取りが出来るようなロールプレイを繰り返し理解する。 （授業目標） 一年間で基礎フランス語をマスターし、話す・聞く・読むと言った3技能をしっかりと学習・理解して「参加しよう、話そう、コミュニケーションをとろう！」が指導目標。 （学習成果） ○B：フランス語を使ってコミュニケーションをする意欲を深める。 D：フランスの文化や社会を知り、日本との違いを確認して、視野を広げることができる。 ◎E：挨拶、願望、意思を伝えるフランス語の基本表現を操作できる。
--	---

授業計画	1 オリエンテーション 授業の概要 フランスってどんな国？ 挨拶 1 2 Lecon 1 アルファベ アルファベット、読み方のルール 発音の仕方 挨拶 2 3 Lecon 1 敬称・自己紹介 自己紹介「私は～です」 数字(1～10) 自分の名前をアルファベットで一文字ずつフランス語で言う 4 Lecon 2 表現 色々な表現 「ありがとう」 「どういたしまして」 「どうぞ」 「お願いいたします」等 数字(11～20) 5 Lecon 2 冠詞・名詞 女性名詞、男性名詞、リエゾンの仕組み 曜日 数字復習(1～20) 6 Lecon 3 主語人称代名詞と動詞 動詞の活用 文章を作る je/tu/il/elle/nous/vous/ils/elles 数字(21～30) 7 Lecon 3 動詞 etre 不規則動詞の活用 自己紹介(国籍・職業) 数字(31～40) 8 Lecon 4 動詞 avoir avoirの色々な表現 場所を表す前置詞 数字復習(1～40) 9 Lecon 4 部分冠詞 表現「～がある」 語彙 数字(41～50) 10 Lecon 5 er 動詞 動詞：好む・住む・食べる・働く・買う・勉強する・探す・歩く 数字(51～60) 11 Lecon 5 疑問文・否定文 「～ですか？」疑問文 「～ではありません」否定文 数字復習(1～60)
------	---

	12	Lecon 5 ir 動詞 動詞：選ぶ・終わる 数字(61~70)
	13	Lecon 6 形容詞の性と数 男性形、女性形、複数形の作り方 数字(71~80)
	14	Lecon 6 命令文 「～しなさい」命令文 数字復習(1~80)
	15	Revisions 復習回 今まで学んだフランス語をつかってロールプレイ
到達目標・基準	<p>学年末には実用フランス語検定5級を習得するレベルまで達する。5級受験用練習問題も扱う。</p> <p>○B：フランス語圏の人と臆せず基本的なコミュニケーションができる。</p> <p>D：フランスだけでなく外国に関心を持ち、日本を今までと違う角度から見るができる。</p> <p>◎E：基本的なフランス語の表現ができる。</p>	
事前・事後学習	<p>毎日学習：前回学んだ講義内容を参考に、発音を意識してテキストを音読し、文章を覚える。（毎日15分程度）</p> <p>事後学習：今回学んだ文法を理解して練習問題を解く（30分程度）</p>	
指導方法	<p>教科書の内容に沿って、文法を分かり易く説明して理解させる。文字の読み方をしっかり確認しながらフランス語を声に出して発音させる。実際にロールプレイで全員が参加してコミュニケーションを取りながら会話の練習をする。目や頭ではなく、口と耳をフル回転して楽しくフランス語身に付けていく。</p> <p>フィードバックの方法：練習問題を皆で確認する。フランス語での質疑応答で理解度を確認する。</p>	
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>○B：間違いを恐れずに相手に伝えるという意欲を評価する。</p> <p>D：授業での課題・筆記試験を評価する。</p> <p>◎E：授業での口頭の受け答えを評価する。</p> <p>授業での課題20%、定期試験60%、授業態度20%</p>	
テキスト	<p>「Nouveau Ken et Julie」（駿河台出版社） 講師参考資料よりプリントの配布</p>	
参考書	<p>講師参考資料 Bescherelle la conjugaison C'est la vie 早美出版社 Mon premier vol Tokyo-Paris 駿河台出版社 Une aventure 早美出版社 パターンで話せるフランス語 ナツメ社</p>	
履修上の注意	<p>フランス語の授業を受けに来るのではなく、フランス語を話にくる事を意識しましょう。</p> <p>また毎日の音読で、必ず近い将来、旅行先で、社会人になって仕事場で、街中で、習得したフランス語を活かせるように、自分なりの目標・目的を持って授業に臨みましょう。1回でも欠席するとそれをきっかけに分かなくなるので欠席は極力しないようにしましょう。</p> <p>フランス語は日本において日常触れている身近な言葉です。</p> <p>英語が外国語として主流の日本で、実はフランス語も毎日触れている言葉です。</p> <p>多様性が求められ、様々な文化・文明への探求が益々求められる日本社会において、フランス語は教養語ではなく、日常語であり、よく耳にする、見る言葉です。意外にもフランス語は私達の日々の生活に溢れています。レストラン、ファッションアイコン、オリンピック・パラリンピックの公用語、多数のアフリカ諸国の公用語、国際機関においてもフランス語は必須です。この機会に1年間でしっかりと基礎フランス語を身に付けましょう。</p> <p>また学年末には実用フランス語検定5級にもトライしましょう。</p>	
アクティブ・ラーニング、PBL	<p>ロールプレイ</p>	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：東祥子）			
ナンバリング：G29C36	実務家教員による授業		
添付ファイル			

<p>授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力</p>	<p>（授業内容） 基礎フランス語を学ぶ。語学と同時に文化・国民性にも触れて、フランス語は勉強ではなく文化の一部であり、生きている・使うものという事を念頭において楽しく学ぶ。常に<参加型>の授業で、講義ではなく、[話そう、聞き取ろう、答えよう]という形式で、簡単な会話の授業を行う。教室に入ったら、フランスの世界！を実感。旅行、日本における国際機関、ホテル業、観光業、飲食業（調理場）で実際役立つやり取りが出来るようなロールプレイを繰り返し理解する。</p> <p>（授業目標） 一年間で基礎フランス語をマスターし、話す・聞く・読むと言った3技能をしっかりと学習・理解して「参加しよう、話そう、コミュニケーションをとろう！」が指導目標。</p> <p>（学習成果） ○B：フランス語を使ってコミュニケーションをする意欲を深める。 D：フランスの文化や社会を知り、日本との違いを確認して、視野を広げることができる。 ◎E：挨拶、願望、意思を伝えるフランス語の基本表現を操作できる。</p>
---	--

<p>授業計画</p>	<p>1 Lecon 16 色々な動詞 「動詞：好む・住む・食べる・働く・買う・勉強する・探す・歩く 数字(20~30)</p> <p>2 Lecon 17 不規則動詞・指示形容詞 vouloir「～したい」 pouvoir「～できる」 prendre「とる、食べる、乗る」 attendre「待つ」 数字(30~40)</p> <p>3 Lecon 18 不規則動詞・前置詞+冠詞の縮約 aller「～へ行く」 venir「～から来る」 数字(40~50)</p> <p>4 Lecon 19 疑問副詞 疑問文「いつ」「どこで」「どのように」「いくら」「なぜ」？ 数字(50~60)</p> <p>5 Lecon 20 近い未来形・近い過去形・疑問代名詞 aller+動詞の原形 venir de+動詞の原形 「誰が」？ 数字(60~70)</p> <p>6 Lecon 21 不規則動詞・時を表す前置詞（句） faire「する」 partir「出発する」 数字(70~80)</p> <p>7 Lecon 22 時刻や天候など日常表現 「何時？」「…時」お天気は？ il faut「～しなければならない」 数字(80~90)</p> <p>8 Lecon 23 疑問形容詞・不規則動詞 「どの～」 「どれ～」 devoir「しなければならない」 lire「読む」 connaitre「知っている」 数字(90~100)</p> <p>9 Lecon 24 目的語代名詞 「…を～へ」</p> <p>10 Lecon 25 代名動詞・不規則動詞 voir「見る」 savoir「知る」</p> <p>11 Lecon 26 過去形 avoir 「～をした」</p> <p>12 Lecon 27 過去形 etre 「～をした」</p> <p>13 Lecon 28 復習回 revisions+supplement</p>
-------------	--

	<p>料理・メニューを読み取ろう フランス料理の特殊な言い回し</p> <p>14 Lecon 29 復習回 Revisions+supplement カフェ・レストランでの注文 お店での買い物</p> <p>15 Lecon 30 復習回 Revisions +supplement 実用フランス語検定5級練習問題 仏検に挑戦しよう！</p>
到達目標・基準	<p>学年末には実用フランス語検定5級を習得するレベルまで達する。5級受験用練習問題も扱う。</p> <p>○B：フランス語圏の人と臆せず基本的なコミュニケーションができる。</p> <p>○D：フランスだけでなく外国に関心を持ち、日本を今までと違う角度から見るができる。</p> <p>◎E：基本的なフランス語の表現ができる。</p>
事前・事後学習	<p>毎日学習：前回学んだ講義内容を参考に、発音を意識してテキストを音読し、文章を覚える。（毎日15分程度）</p> <p>事後学習：今回学んだ文法を理解して練習問題を解く（30分程度）</p>
指導方法	<p>教科書の内容に沿って、文法を分かり易く説明して理解させる。文字の読み方をしっかり確認しながらフランス語を声に出して発音させる。実際にロールプレイで全員が参加してコミュニケーションを取りながら会話の練習をする。目や頭ではなく、口と耳をフル回転して楽しくフランス語身に付けていく。</p> <p>フィードバックの方法：練習問題を皆で確認する。フランス語での質疑応答で理解度を確認する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>○B：間違いを恐れずに相手に伝えるという意欲を評価する。</p> <p>○D：授業での課題・筆記試験を評価する。</p> <p>◎E：授業での口頭の受け答えを評価する。</p> <p>授業での課題20%、定期試験60%、授業態度20%</p>
テキスト	<p>「Nouveau Ken et Julie1」（駿河台出版社） 講師参考資料よりプリントの配布</p>
参考書	<p>講師参考資料 Bescherelle la conjugaison C'est la vie 早美出版社 Mon premier vol Tokyo-Paris 駿河台出版社 Une aventure 早美出版社 パターンで話せるフランス語 ナツメ社</p>
履修上の注意	<p>フランス語の授業を受けに来るのではなく、フランス語を話にくる事を意識しましょう。</p> <p>また毎日の音読で、必ず近い将来、旅行先で、社会人になって仕事場で、街中で、習得したフランス語を活かせるように、自分なりの目標・目的を持って授業に臨みましょう。1回でも欠席するとそれをきっかけに分かなくなるので欠席は極力しないようにしましょう。</p> <p>フランス語は日本において日常触れている身近な言葉です。</p> <p>英語が外国語として主流の日本で、実はフランス語も毎日触れている言葉です。</p> <p>多様性が求められ、様々な文化・文明への探求が益々求められる日本社会において、フランス語は教養語ではなく、日常語であり、よく耳にする、見る言葉です。意外にもフランス語は私達の日々の生活に溢れています。レストラン、ファッションアイコン、オリンピック・パラリンピックの公用語、多数のアフリカ諸国の公用語、国際機関においてもフランス語は必須です。この機会に1年間でしっかりと基礎フランス語を身に付けましょう。</p> <p>また学年末には実用フランス語検定5級にもトライしましょう。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：史悦）			
ナンバリング：G16C34（1年生）	ナンバリング：G19C37（2年生）		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	（授業内容） 中国語の発音・声調から、挨拶、別れ、お礼、お詫びなど基本的な会話表現と基礎文法を習得する。中国文化に触れながら、基礎的なコミュニケーション能力を養う。中国語の表音文字である「ピンイン」の読み方、書き方を学び、簡体字を修得する。 （授業目標） 「聞く・話す・読む・書く」の総合的な応用能力を養成し、「HSK 中国漢語水平考試」（中国国家教育部認可の中国語国家試験）の「1級」レベル到達を目標とする。 （学習成果） ◎B：中国語の基本挨拶を習得する。 ○D：中国語の正しい発音、基礎的な語彙や文法を身につける。		
授業計画	1	ガイダンス 自己紹介、授業内容、授業の進め方、学ぶ方法に関する説明。 挨拶：こんにちは ピンイン：声調と母音(単母音)	
	2	発音、挨拶 ピンイン：複合母音(二重母音・三重母音) 挨拶：ありがとう 発音実習：ピンイン発音練習	
	3	発音、文法 ピンイン：子音、巻舌音その他の子音 文法：1. 疑問代詞“何に？” 2. “是”構文 3. “吗”を使った疑問文 ペアワーク：自己紹介	
	4	発音、文法 ピンイン：前鼻音n、後鼻音ngの区別、zhi, ch, sh, rの区別 文法：1. 疑問代詞“誰”と“哪” 2. 構造助詞“的” 3. 疑問助詞“呢” (1) ペアワーク：家族メンバーを紹介する	
	5	発音練習、文法 発音練習：r化の発音、有気音と無気音の区別 文法：1. 100までの数字 2. 変化を表す“了” 3. 疑問代詞“几” ペアワーク：家族の状況を紹介する	
	6	発音練習、文法 発音練習：2音節の声調の組み合わせ① 文法：1. 能願動詞“会”① 2. 形容詞述語文 3. 疑問代詞“どうですか？”① ペアワーク：中国語が話せる	
	7	発音練習、文法 発音練習：2音節の声調の組み合わせ② 文法：1. 日にちの表し方 (1)：月、日、曜日 2. 名詞述語文 3. 連動文 (1) ペアワーク：お誕生日の表し方 (Q&A)	
	8	発音練習、文法 発音練習：2音節の声調の組み合わせ③ 文法：1. 能願動詞“想” 2. 金額の表し方 3. 疑問代詞“多少” ペアワーク：一週間の計画 (Q&A)	
	9	発音練習、文法 発音練習：2音節の声調の組み合わせ④ 文法：1. 動詞“在” 2. 疑問代詞“哪儿” 3. 疑問助詞“呢” ペアワーク：友達の仕事について紹介する	
	10	“有”を使った文 発音：軽声の読み方 文法：1. “有”を使った文 2. 能願動詞“能” 3. “”を使った命令文 ペアワーク：座席の位置を紹介する	
	11	時間の表し方 発音：軽声の機能 文法：1. 時間の表し方 2. 時間詞と状語 3. 名詞“前” ペアワーク：1日の生活習慣を話す	
	12	主述述語文 発音：3音節の声調の組み合わせ①	

	<p>13 文法：1. 疑問代詞“怎么样” 2. 主述語文 3. 能願動詞“会” (2) ペアワーク：天気状況の表し方 (Q&A) “在……？”進行形 発音：3音節の声調の組み合わせ②</p> <p>14 文法：1. “在……呢”進行形 2. 電話番号の表し方 3. 語気助詞“吧” ペアワーク：電話番号の表し方 (Q&A) 発音：3音節の声調の組み合わせ③ 発生また完成を表す“了” 発音：3音節の声調の組み合わせ④</p> <p>15 文法：1. 発生または完成を表す“了” 2. 名詞“后” 3. 副詞“都” グループワーク：1日の活動について話す (Q&A) “是……的”構文 発音：3音節の声調の組み合わせ④ 文法：1. “是……的”構文：強調する 2. 日にちの表し方 (2) ; 年、月、日、曜日 グループワーク：中国語の勉強経歴について会話を練習する</p>
到達目標・基準	<p>◎B：日常生活に使われる表現を用いて基本的な会話ができる。 ○D：語彙力を増やし、初歩的な会話を聞き取り、概要及び詳細を理解できる。 E：日常生活で基本的な中国語の表現ができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：新出単語及び例文を発音し意味を確認する。(15分程度) 事後学習：語彙を暗記し、本文を読んで、課題(毎回の授業で指示する)を完成させる。Google Classroomを利用し、オンラインで課題を提出する。(40分程度)</p>
指導方法	<p>教科書に基づき授業を進める。各課の単語、本文と文法ポイントを指導した後、全体的に復習し、さらに応用練習を通じて、学生一人ひとりが習得できるように努める。 ＜フィードバックの方法＞ Google Classroomを通じて ① 事前課題を提示、② 筆記課題、動画課題提出(学生)、 ③ 指摘事項を記入し返却、④ 質問があった場合には、個別に対応する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎B：授業中の参加態度及び質疑対応を評価する。 ○D：定期試験を評価する E：課題の提出物を評価する。</p> <p>定期試験50%、課題30%、授業態度20%</p>
テキスト	<p>『中国語の世界標準テキスト1』北京語言大学出版社編 出版社：株式会社スプリックス 出版日：2021年4月1日 初版第3刷発行 定価：¥2,420(本体2,200円+税10%)</p>
参考書	<p>以下のものを推薦する： 電子辞書 文法参考書：『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(相原茂ほか著・同学舎)</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業が大切です。欠席せずに積極的に参加しましょう。 ・出欠確認の方法については初回オリエンテーションの際に説明する。 ・学期末には中国語資格試験HSK1級にもトライしましょう。
アクティブ・ラーニング、PBL	<p>会話実習：基本の挨拶と自己紹介(ペアワーク、グループワーク)</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：史悦）			
ナンバリング：G29C38			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 中国語の各要素を丁寧に偏りなく学習し、初級レベルの基礎知識をしっかりと身につける。中国語の勉強と同時に日本と異なる文化への理解を深め、視野を広げていく。 中国語 I に引き続き、中国の文化や生活習慣について知るとともに、中国語の初級段階の発音、語彙、文法、表現などの学習事項を理解・習得し、初歩的な会話のやり取り及び読み書きができるようになる。 (授業目標) 「HSK 中国漢語水平考試」(中国国家教育部認可の中国語国家試験)の「2級」レベル到達を目標とする。 (学習成果) ◎B：中国語を使って、場面に適したコミュニケーションをとることができる。 ○D：中国の文化と社会を知り、視野を広げることができる。
授業計画	<p>1 復習・概数の表し方 1. 中国語 I の復習と練習 2. 概数の表し方：几、多 ペアワーク：旅行についての会話</p> <p>2 疑問文 1. “是不是”を使った疑問文 2. 代詞“每”、疑問代詞“多” グループワーク：基礎情報と運動状況について尋ねて会話をつくる</p> <p>3 “的”を使った文 1. “的”を使った文 2. “一下”を使った文、副詞“真” ペアワーク：どれが誰の物か尋ねて、確認する</p> <p>4 “是……的”構文 1. “是……的”構文：行為を強調する。 2. 時間を表す：……時 ペアワーク：中国語の勉強経歴について話す</p> <p>5 副詞：“就”、“還” 1. 副詞：“就”“還”① 2. “有点儿” グループワーク：ある物事に対する見方を尋ねる</p> <p>6 原因表し関連詞 1. 疑問代詞“怎么？” 2. 原因表し関連詞 ペアワーク：“怎么”を用いて練習する</p> <p>7 場所、時間、目的の距離を表す 1. 場所、時間、目的の距離を表す。 2. 副詞“就”“還”② グループワーク：お誕生日のお祝いの仕方について尋ね、話す</p> <p>8 兼語文、動詞の重ね型 1. 疑問文“……，好吗” 2. 兼語文 3. 動詞の重ね型 本文実習：兼語文を用いて練習する 4. ペアワーク：兼語文使って、お互いに練習する</p> <p>9 結果補語、順序を表す方法 1. 結果補語 2. 順序を表す“第～” ペアワーク：自分の趣味について話す</p> <p>10 否定式命令文 1. 命令文：“不要……了” / “別……了” 2. 介詞：“对” グループワーク：“对”を使って会話を作る</p> <p>11 比較の言い方 1. 比べるを表す“比”構文① 2. 定語になる動詞 3. 助動詞“可能” ペアワーク：“比”の構文を用いての会話</p>

	<p>12 状態補語 1. 状態補語 2. 比べる表す“比”構文 グループワーク： ① “比”の構文 ② 「A比B+V+得+adj」、 「A+V+得+比B+adj」の文型を使い、練習する</p> <p>13 進行のAspect 1. Aspect助詞“着” 2. 反語文“不是……??” 3. 介詞“往” ペアワーク：“着”を用いて写真の内容を述べる</p> <p>14 経験のAspect 1. Aspect助詞“過” 2. 関連詞“……但是……” 3. 動量詞“次” ペアワーク：“過”を用いて自身が経験した事を話してみる</p> <p>15 動作の状態の表し方 1. 動作の状態“要……了” 2. “都……了”構文 グループワーク：新年の計画について、話してみる</p>
到達目標・基準	<p>◎B：様々な場面で実用的な会話ができる、中国語圏の人と基本的なコミュニケーションができる。 ○D：中国の文化と生活に関心を持ち、新たな視点から中国の文化を理解することができる。 E：学習内容の応用練習を通じ、基本的な中国語の表現ができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：新出単語及び例文を発音し意味を確認する。(30分以上) 事後学習：語彙を暗記し、本文を暗唱で、課題(毎回の授業で指示する)を完成させる。Google Classroomを利用し、オンラインで課題を提出する。(60分以上)</p>
指導方法	<p>原則として教科書に基づき授業を進めるが、各課の単語、本文と文法ポイントを指導した後、全体的に復習し、さらに応用練習を通じて、学生一人ひとりが習得できるように努める。 <フィードバックの方法> Google Classroomを通じて ① 事前課題を提示、② 筆記課題、動画課題提出(学生)、 ③ 指摘事項を記入し返却、④ 質問があった場合には、個別に対応する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎B：授業中の参加態度及び質疑対応を評価する。 ○D：定期試験で評価する。 E：課題の提出物を評価する。</p> <p>定期試験50%、課題30%、授業態度20%</p>
テキスト	<p>『中国語の世界標準テキストー2』北京語言大学出版社編 出版社：株式会社スプリックス 出版日：2021年4月1日 初版第2刷発行 定価：¥2,585(本体2,350円+税10%)</p>
参考書	<p>以下のものを推薦する。 電子辞書 文法参考書：『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(相原茂ほか著・同学舎)</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業が大切です。欠席せずに積極的に参加しましょう。 ・出欠確認の方法については初回オリエンテーションの際に説明する。 ・学年末には中国語資格試験HSK2級にもトライしましょう。
アクティブ・ラーニング、PBL	<p>実用的な会話に応用する。(ペアワーク、グループワーク)</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：姜瑢嬉）			
ナンバリング：G16C36（1年生）	ナンバリング：G19C39（2年生）		
添付ファイル			

<p>授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力</p>	<p>【授業内容】 韓国語の文字（ハングル）の読み書きを学習し、基本文型の習得や応用練習を通じて韓国語の基礎をしっかりと学ぶ。また、韓国語での基礎表現に自信を持って簡単な日常会話や挨拶ができるように演習を重ねる。ハングルのマスターして、初級レベルの韓国語の文法知識を身につけていくのが、本授業の内容である。</p> <p>【授業目標】 韓国語の文字であるハングルの仕組みと作り方の原理を理解した上で、ハングルの基本子音字、基本母音字、合成母音字、終声（パッチム）の正確な読み書きができ、正しく発音できることを第一の目的とする。次に、ハングルの読み方、書き方、発音のルールを身につけて、初級レベルの基礎的な文法事項（助詞、名詞文の肯定・否定文、疑問文など）を駆使しながら、韓国語で挨拶や簡単な自己紹介ができることを目標とする。</p> <p>【学習成果】 ◎A：学習目標に興味を持ち、積極的に参加することができる。 ○B：ハングルや基本的な日常会話を覚え、正しい韓国語を話すことができる。 C：学習内容の応用練習を通じ、設問を解くことができる。 D：語彙力を増やし、聞き取りができるようになる。 E：様々な教室活動の中で自分の考えを取り入れて表現することができる。</p>
<p>授業計画</p>	<p>1 ガイダンス及び1課 文字と発音 授業内容と計画などを紹介 韓国語の自己紹介&挨拶の表現と練習（はじめまして。名前+と申します） 韓国語文字（ハングル）の紹介 単母音・初声その1</p> <p>2 1課 文字と発音 小テスト（授業前）：前回の内容確認（単母音・初声その1） 半母音+単母音、終声・その1</p> <p>3 2課 文字と発音 小テスト（授業前）：前回の内容確認（半母音+単母音、終声・その1） 初声・その2（平音）、発音の規則：有声音化</p> <p>4 2課 文字と発音 小テスト（授業前）：前回の内容の確認（初声・その2-平音） 半母音+単母音、発音の規則：連音化</p> <p>5 3課 文字と発音 小テスト（授業前）：前回の内容の確認（半母音+単母音、発音の規則：連音化） 初声・その3（激音）、初声・その4（濃音）</p> <p>6 3課 文字と発音 小テスト（授業前）：前回の内容の確認（初声・その3-激音、初声・その4-濃音） 終声・その2、発音の規則：濃音化</p> <p>7 4課 韓国人です。 自己紹介の表現、助詞（は） ハングル総合テスト（授業前） 文法解説（教科書 pp. 24-26） 語彙と表現、会話本文の解説、口頭練習（教科書 pp. 22-23）</p> <p>8 4課 韓国人です。 小テスト（授業前）：前回の内容の確認 練習問題、答えあわせ、補足説明（教科書 pp. 24-26） 会話文の演習</p> <p>9 5課 韓国語は専攻ではありません。 否定形、助詞（が）、～です・ですか。 文法解説（教科書 pp. 32-34） 語彙と表現、会話本文の解説、口頭練習（教科書 pp. 30-31）</p> <p>10 5課 韓国語は専攻ではありません。 小テスト（授業前）：前回の内容の確認 練習問題、答えあわせ、補足説明（教科書 pp. 32-34） 会話文の演習</p> <p>11 6課 教室は階段の横にあります。 漢数字、存在の表現、助詞（に） 文法解説（教科書 pp. 38-40） 語彙と表現、会話本文の解説、口頭練習（教科書 pp. 36-37）</p> <p>12 6課 教室は階段の横にあります。 小テスト（授業前）：前回の内容の確認 練習問題、答えあわせ、補足説明（教科書 pp. 38-40） 会話文の演習</p>

	<p>13 プレゼンテーション (PBL) グループワーク 会話文の発表</p> <p>14 プレゼンテーション (PBL) グループワーク 会話文の発表</p> <p>15 総合復習 まとめ (学習内容の振り返りと理解度確認のテストなど)</p>
到達目標・基準	<p>◎A：ハングルの読み書きや韓国語に抵抗なく勉強することができる。</p> <p>○B：韓国語で挨拶や自己紹介など基本的な会話ができる。</p> <p>C：名詞や適切な助詞を使い短文を書くことができる。</p> <p>D：簡単な質問に答えることができる。</p> <p>E：自分の感情を形容詞を使い韓国語で表現できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：教科書の語彙を予習として覚えること。(20分) 教科書の文法内容を読んで学習内容について調べること。(5分) 音声資料を聞きながら実際に声を出して発音の練習をすること。(10分)</p> <p>事後学習：教科書の文型練習や応用練習を解いてみること。(20分) 音声資料を聞きながら声を出して練習し、内容を覚えること。(10分) 覚えにくい語彙や文法内容をノートに書きながら整理すること。(10分)</p>
指導方法	<p>教科書をメインにして順序よく進め、パワーポイント、映像資料などを使用し説明する。 一方的な講義ではなくFlipped learning、グループワークを積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：課題については返却の際に個別対応する。小テストを行い、採点・返却時に解説を行う。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎A：定期試験を評価する。</p> <p>○B：小テスト、課題を評価する。</p> <p>C：授業への参加態度及び質疑対応を評価する。</p> <p>D：参加態度や授業貢献度を評価する。</p> <p>E：提出物を評価する。</p> <p>定期試験40%、課題・小テスト40%、授業への参加態度・貢献度20%</p>
テキスト	『韓国語の世界へ 入門編』、朝日出版社、2024年度四訂版、李潤玉他4人
参考書	
履修上の注意	<p>毎回の授業内容が大事ですので、やむを得ない事情以外は出席してください。 予習・復習をとぎれることなく積み重ねていきましょう。 授業に積極的に参加してください。 課題は必ず期限内提出してください。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	<p>PBL型授業 (グループワーク) Flipped learning</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：姜瑢嬉）			
ナンバリング：G29C40			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>【授業内容】 教科書に沿って簡単な日常会話を学び、自分の意見や考えなどを伝えることができるように練習を重ねる。</p> <p>【授業目標】 初級レベルの基本的な語彙と文法を正しく理解し、日常生活においてよく使う簡単な文章を韓国語で自由に読み書きができる。</p> <p>【学習成果】 ○A：グループワークをクラスで協働しながら、楽しく韓国語を身に付ける。 B：簡単な韓国語の質問に答えることができる。 C：正しい単語を使い答えることができる。 D：基本文型や文法が理解できる。 ◎E：語彙を増やして、自分の意見を表現できる。</p>
授業計画	<p>1 授業紹介 韓国語 1 復習(第1課～第10課) 動詞と形容詞の語彙復習 韓国語 2 シラバス紹介</p> <p>2 第11課 いつ日本へ来ましたか？ 過去形 ～でした。～ました。 ～でしたか。～ましたか。 Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認める。</p> <p>3 第11課 いつ日本へ来ましたか？ 授業前小テスト：過去形 11課会話文練習</p> <p>4 第12課 お名前は？ 敬語 敬語の特集例 名詞分の敬語 助詞の敬語 Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認める。 12課会話文練習 授業後小テスト</p> <p>5 第13課 どちらへ行ってらっしゃいましたか？ 敬語の過去形 Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認める。 13課会話文練習 授業後小テスト</p> <p>6 第14課 日本と韓国は似ているけど、けっこう違うでしょう？ 確認と逆接の表現 ～でしょう？～よね？ ～が、けれども Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認める。 14課会話文練習 授業後小テスト 日韓文化の比較①</p> <p>7 第15課 温泉に行きたいです。 希望の表現 ～したいです。 第三者の希望 ～したがついています。 Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認める。 15課会話文練習 授業後小テスト</p> <p>8 第16課 プレゼントを買うのでたくさんお金を使います。 理由と原因の表現</p>

	<p>～ので 不規則活用 Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認する。 16課会話文練習 授業後小テスト</p> <p>9 第17課 結婚式に何を着ていけばいいですか？ 許可求めの表現 ～してもいいですか？・～すればいいですか？ 仮定・条件 ～ば、～たら Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認する。 17課会話文練習 授業後小テスト</p> <p>10 日韓文化の比較② 第18課 食事でも一緒にしましょうか？ 勧誘の表現 ～しましょうか？・～ましょう。 Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認する。 18課会話文練習 授業後小テスト</p> <p>11 第19課 写真をちょっと撮っていただけますか？ 依頼の表現 ～していただけますか？ ～てください。 Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認する。 19課会話文練習 授業後小テスト</p> <p>12 第20課 自転車に乗ることができますか？ 能力・可能の表現 ～することができます。 ～することができません。 現在進行の表現 ～ています。 Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認する。 20課会話文練習 授業後小テスト</p> <p>13 総合復習① 第11課～第15課までの内容復習 会話練習 ロールプレイング</p> <p>14 総合復習② 第16課～第20課までの内容復習 会話練習 ロールプレイング</p> <p>15 活動授業 学習した韓国語を生かしレクリエーションゲーム、ロールプレイング 実習、プレゼンテーション</p>
到達目標・基準	<p>○A：会話文をグループで練習しながら、楽しく覚えられる。 B：希望、可能の表現を使い話すことができる。 C：敬語や過去形が区別できる。 D：日本の文化と韓国の文化の比較ができる。 ◎E：韓国語で買い物、注文などができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：教科書の語彙を予習として覚えること。(20分) 教科書の文法内容を読んで学習内容について調べること。(10分) 音声資料を聞きながら実際に声を出して発音の練習をすること。(5分) 事後学習：教科書の文型練習や応用練習を解いてみること。(10分) 音声資料を聞きながら声を出して練習し、内容を覚えること。(10分) 覚えにくい語彙や文法内容をノートに書きながら整理すること。(10分)</p>
指導方法	<p>教科書をメインにして順序よく進め、パワーポイントを使用し説明する。 一方的な講義ではなくグループワーク、レクリエーションゲーム等を積極的に取り入れる。 Flipped classroomを設け能動的な学習スタイルを通じ、学習効率を上げる。 フィードバックの仕方：音声課題については返却祭に個別対応する。 小テストを行い、学習状況を把握する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>○A：グループ内で参加態度や授業貢献度を評価する。 B：授業中の参加態度及び質疑対応を評価する。 C：小テスト、課題を評価する。 D：定期試験を評価する。 ◎E：プレゼンや提出物を評価する。</p> <p>定期試験40%、授業への参加態度・貢献度20%、課題・小テスト等40%</p>
テキスト	李志暎『できる韓国語 初級Ⅰ』DEKIRU出版，2018年5月1日新装版
参考書	

履修上の注意	<p>毎回の授業内容が大事ですので、やむを得ない事情以外には出席してください。 欠席した場合はGoogle classroomの授業動画を視聴し、自習してください。 予習・復習をとぎれることなく積み重ねていきましょう。 グループワークには積極的に参加しましょう。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	<p>Flipped learning PBL型授業（グループワーク） アクティビティ（ゲーム）</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	1	総合：選択
担当教員			
総合教養センター専任全教員、中村和由、吉田涼平			
ナンバリング：G37C38			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業内容) 企業（自治体）等の今日的課題解決を通じ「大学での一般的授業では体験できない機会」を経験するPBL型授業である。指定するプロジェクトに参加して連携先の課題解決のためにグループで活動し、所定の成果を出すことで単位修得ができる。開講期間内に限らず夏期もしくは春期休暇期間中にも実施することがある。</p> <p>(授業目標) 社会で活躍する企業人等と出会い、実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、より専門分野の学びを深め、ジェネリックスキルを高める必要性に気づく場をつくることで、社会でリーダーとして活躍できる人材となることを目標とする。</p> <p>(学習成果) ◎A：課題内容とチーム全体の状況をよく理解し、成果実現のために臨機応変に最後まで貢献することができる。 ◎C：プロジェクトの目標達成に向けて主体的にPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる</p>
授業計画	<p>1 説明会（授業内にて実施） 産学（官）連携プログラムの意義、目的について、参加メンバー紹介、プログラムスケジュール、具体的なゴールのイメージを共有する。</p> <p>2 企業（自治体）より、揭示された課題の説明 各企業（自治体）が抱える問題（現状把握）とそれに伴う課題を担当者から直接お話しいただくことで、自分事として捉えて今後の取り組みに備える。</p> <p>3 中間報告会1 各自取組中の状況報告を行い、取り組むべき方向性について企業（自治体）からアドバイスをいただく。</p> <p>4 中間報告会2 進捗確認、必要に応じて企業（自治体）からアドバイスをいただく。</p> <p>5 プレゼンテーション・フィールドワーク・実施 課題の解決案を企業（自治体）に対して発表する。</p> <p>6 報告会（授業内・外にて実施予定） 販売・サービス運営の結果を調査・分析し、報告書を産学（官）連携先へ提出・評価を受ける。</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12</p> <p>13</p> <p>14</p> <p>15</p>
到達目標・基準	<p>実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、学び成長し続けることの大切さを自覚し、社会で活躍できる人材となることを目標とする。</p> <p>◎A：課題内容と自らの役割をよく理解し、成果実現のために最後までチームに貢献することができる。 ◎C：プロジェクトの目標達成に向けてPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：情報収集や提案内容のまとめなど、次回授業に向けて必要な準備をする。（30分） 事後学習：事後のふりかえり、関連する社会課題などの学習、進捗状況によってはグループ活動など。（30分）</p>

指導方法	<p>産学（官）連携によるPBL型授業である。連携先企業、自治体等の協力のもと実施する。グループ活動が基本となり、課題解決案の提示からその実現、成果の分析・報告までが原則のプログラムとなる。学内だけでなく、連携先等にとっての活動もある。</p> <p>フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜、個別あるいはグループ、履修者全体に対してフィードバックする。</p> <p>授業は原則として、パワーポイントやプリントを使用しての講義と、個人ワーク、グループワークで進められる。授業で学び、考え、計画をたてて実行し、それらをふりかえって次の授業に臨むという一連の流れである。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>事前・事後学習を含めて活動し、一定の成果を出し所定のプログラムを修了することで、2段階で評価（Passもしくは、Drop）とする。</p> <p>◎A：平常点および成果発表で評価する ○C：平常点および成果発表で評価する</p> <p>平常点（課題提出、貢献度）50%、 成果発表（最終成果物、プレゼンテーション、報告レポートなど） 50%</p>
テキスト	プロジェクトによって異なるため、必要に応じて提示する
参考書	プロジェクトによって異なるため、それぞれのプロジェクトの授業時に、必要に応じて提示する
履修上の注意	<p>*「プロジェクト演習」の授業名で複数のプロジェクトが展開する。それぞれの実施概要は、開講期間中に都度説明会内で発表する。参加希望者は学内連絡をよく確認し、説明会に必ず参加すること。</p> <p>*放課後の活動だけでなく、休日の活動、夏期休暇、春期休暇の活動が含まれる場合もある。</p> <p>*プロジェクト内容によっては履修条件が設けられることがある。</p> <p>*プロジェクト演習に係る交通費・食費・宿泊費等は参加者の負担となる。</p> <p>*グループの進捗状況に応じて、事前事後のグループ活動を授業外で行う必要が生じる。</p> <p>*履修登録はプロジェクト終了後に登録となる。担当教員の指示にしたがうこと。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL